

凝集破壊であった。

第 28 号 : 29-34(2009)

本多琢己「平板プレス液中圧縮法によるウレタン樹脂の注入」

平板プレスを用いて、木材を液中で圧縮変形し除荷する液中圧縮法について、常温・常圧の水中浸漬による水の注入効果を検討した。試験片の含水率は浸漬法に比べて著しく増加し、液中で圧縮することの有効性が確認された。高い圧縮率や繰り返し処理によって注入量は増大し、試験片中央部への浸透量は増加した。平板プレスを用いた前圧縮法においても液中圧縮法と同程度の含水率が得られた。液中圧縮法では、除荷直後の弾性的な変形回復による液体吸引によって、液体注入効果が短時間に発現するものと考えられた。平板プレス液中圧縮法を用いて板材への低分子量ウレタン樹脂の注入処理を試みた。ウレタン樹脂を用いて圧縮変形を固定した圧縮木材を調製し、液中圧縮から変形固定までの一連の加工に伴って損傷などが生じないことを確認した。

第 28 号 : 35-42(2009)

三枝 茂・鈴木泰仁・上野梅男「山梨県産スギおよびヒノキ柱材の強度および材質特性」

山梨県内の代表的な林業地帯で生産されているスギおよびヒノキ柱材各 200 本の強度特性と材質特性を調査した。曲げヤング係数の平均値は、スギで 7.2 GPa、ヒノキで 9.5 GPa であった。曲げ強さの平均値は、スギで 37.0 MPa、ヒノキで 48.5 MPa であった。

第 28 号 : 43-55(2009)

三枝 茂・鈴木泰仁・上野梅男「山梨県産スギ柱材を利用した土木・建築用製品の部材開発」

山梨県産のスギ柱材を利用して土木・建築用製品に共通して利用できる汎用性の高い部材の開発を行った。部材の端部の形状は大別して 4 種類とした。部材同士の接合はボルトとタッピングを使用するが、これらを取り付ける穴の形状は 3 種類とした。部材同士の接合は 8 種類の方法で行った。これらの部材を利用して、テーブル・ベンチ、藤棚、進入防止柵、転落防止柵、ユニット式デッキの一部分、落ち葉入れなどが試作できた。これらの部材を用いることによって、いろいろな土木・建築用製品を製作することが可能であることが実証できた。

第 28 号 : 57-61(2009)

小澤雅之「林地残材のチップ化作業—グラップル作業の分析—」

山梨県地域において初となる本格的なバイオマスチップボイラが稼働しているが、ボイラへ投入するためのチップ化専用ラインは併設されていない。そこで、林地残材を施設内でチップ化する作業について分析を行った。グラップルを用いて林地残材をチップー機および小型バケットに投入したが、作業にかかる時間に差異は認められなかった。しかし、グラップルによるチップ化の効率を向上させるには、林地残材の発生時からの適切な管理、運用が必要である。

第 29 号 : 1-4(2010)

大澤正嗣「カツラマルカイガラムシの移動・分散方法に関する考察」

カツラマルカイガラムシの移動・分散手段を調査した。カツラマルカイガラムシは同一樹木内では歩行により移動し、また、枝の接したごく隣接した樹木へは歩行による移動が可能と思われた。風で有脚幼虫が多数飛散していることから、有脚幼虫時に風で広範囲に拡散している可能性が示唆された。また、

本カイガラムシ寄生苗木の移動、植栽による伝播が確認され、寄生苗木と共にカイガラムシが長距離を移動し、広がっていると思われた。

第 29 号 : 5-9(2010)

長池卓男「山梨県森林総合研究所実験林アカマツ枯損調査区における伐倒燻蒸処理後の林分構造と成長」
マツノザイセンチュウによるマツ枯れ後のアカマツ林において、伐倒燻蒸処理 5 年後の林分構造や種組成に関して調査を行い、伐倒燻蒸処理前と比較した。立木密度や胸高断面積合計は約半減していたが、平均胸高直径は増大していた。立木密度と胸高断面積合計がともに減少している種(例、アカマツ)が多いものの、立木密度は減少しているが胸高断面積合計は増加している種(例、カスミザクラ、コナラ)も見られた。コナラやカスミザクラは、アカマツよりも小径木が多いものの、胸高直径の相対成長速度では上回っている幹が多かった。この調査地では、アカマツの伐倒燻蒸処理後、コナラやカスミザクラなどの高木種を中心とした森林に推移していくことが推測された。

第 29 号 : 11-16(2010)

本多琢己「単板積層板のモード I 破壊靱性」

本研究ではフェノール樹脂含浸強化 LVL において、一部の単板の挿入角度を変化させた試験体 (LVB) を作製し、き裂進展の抑制に対する有効性を検討した。試験片の圧縮率に関わらずに、挿入角度が大きいほど、 K_{Ic} は大きくなる。また、挿入角度 $\theta = 45^\circ$ の試験片の場合、挿入位置を分散させた方が K_{Ic} は大きく、圧縮率の高い試験片ほど顕著である。 θ が $0^\circ \rightarrow 90^\circ$ の順序でせん断型の破壊に移行し、分離型の破壊を起こしにくくなる。き裂が単板と木材の境界を垂直に伝搬するときは、き裂の進展は単板部分と木材部分で別々に始まる。すなわち、 K_{Ic} の低い単板部分からき裂が進展するが、抑止力が働いてき裂の停止を生ずる。き裂の進展が木材部分に達すると、試験片全体が一気に分離するように破壊する。

第 30 号 : 1-3(2011)

飯島勇人「山梨県のニホンジカ個体群の齢構成と妊娠率」

山梨県での管理捕獲の際に収集したニホンジカの第一切歯、および捕獲個体認査票から、齢構成と妊娠率を算出した。概ね齢が大きいほど捕獲数は少なくなっていたが、個体群の若齢化の指標である Y/A 比は 0.28 であり、極度の若齢化の傾向は認められなかった。妊娠は 1 歳から見られ、1 歳の妊娠率は 77%、2 歳以上の妊娠率も 77% と比較的高い値を示した。以上から、現在の山梨県のニホンジカ個体群は狩猟による強い影響を受けているとは言えず、また潜在的に高い増加能力を持っていると考えられた。

第 30 号 : 5-10(2011)

長池卓男「高標高カラマツ人工林に天然更新した樹木の種組成と 8 年間の動態」

高標高地に造成されたカラマツ人工林の現状を明らかにする上で、天然更新した樹木の種組成と 8 年間の成長・枯死等の動態やニホンジカの影響について解析を行った。各調査区の合計立木密度は、2002 年で 2125-6325 本/ha と約 3 倍の違いが見られた。これは、林分によっては植栽されたカラマツがほとんど消失しシラビソが旺盛に天然更新していたことによる。カラマツではニホンジカによる剥皮は見られず、剥皮はすべて天然更新した樹木のみみられた。また、剥皮されている樹木の約半数がシラビソであった。剥皮されている個体の胸高直径は剥皮されていない個体よりも小さかった。2002 年にニホンジカに剥皮されていた 117 個体のうち、2010 年に死亡していた個体は約 1 割であった。また、2002 年から

2010年の間に死亡していた125個体のうち、2010年に剥皮されていた個体は47個体(うちシラビソ37個体)であった。ニホンジカの影響が今後も同程度維持される場合、カラマツの優占度が低くシラビソなどの剥皮されやすい樹木が優占している林分では、森林としての維持が困難になる場面も想定された。

第30号：11-13(2011)

長池卓男「山梨県北部におけるミズナラ堅果落下量の年変化」

山梨県北部におけるミズナラ堅果落下量の年変化を示した。2003年と2009年は豊作、2002年、2006年、2010年は凶作の傾向にあったと思われる。凶作傾向にあった2006年、2010年には、山梨県でもツキノワグマの出没が多く確認され、ミズナラの堅果生産によってツキノワグマの行動に影響を及ぼしていることが示唆された。

第30号：15-20(2011)

長池卓男「田畑に隣接する森林の除間伐が哺乳類の出没に及ぼす影響」

農作物被害を軽減させるために、田畑に隣接する森林を除間伐して造成された緩衝帯において、造成前後での哺乳類の出現傾向を比較した。除間伐直後には出現が抑制される場所もみられたものの、その後は出現が増加している場所がほとんどであった。場所によっては、除間伐後に、電気柵が設置されており、除間伐による緩衝帯造成のみでは防除効果がなかったことが推察される。緩衝帯を造成後の時間経過とともに植生は回復し、除間伐直後の効果は薄れつつある。本調査地では、継続した管理や追い上げ等も実行されておらず、緩衝帯造成後も継続した人間の関与がその効果を持続させるものと思われる。

第30号：21-23(2011)

本多琢己「竹炭混合API樹脂の接着性」

竹炭の調湿機能を活かした機能性複合材料の可能性を調査するため、以下のことを検討した。竹炭粉をブレンドした市販の水溶性高分子イソシアネート系接着剤について、引張り試験によりフィルム物性を、また、2重片持梁の破壊じん性試験により接着性を調べた。フィルムは柔軟性に欠けるようになるが、破壊じん性値はより大きくなり、耐水処理に対しても安定していた。

第30号：25-28(2011)

本多琢己「竹炭混合API樹脂を結合剤とした単板積層材の調湿性」

竹炭の調湿機能を活かした機能性複合材料の可能性を調査するため、以下のことを検討した。竹炭粉を混合した水溶性高分子イソシアネート系樹脂(API樹脂)接着剤から調製したシート及びLVLの調湿性能を評価した。試料を入れたスチール製容器の外周温度を変化させたときの容器内の関係湿度を温度の関数として測定し、調湿性能に関するB値を算出した。竹炭粉ブレンドによる調湿性能の改良効果が確認された。

第30号：29-32(2011)

小澤雅之・角田邦夫・加藤まさみ「山梨県産針葉樹材の屋外耐久性」

平成18年度からスギ、ヒノキおよびカラマツの耐久性について京都大学生存圏研究所京都大学生生活・森林圏シミュレーションフィールドにおいて屋外暴露試験を実施している。設置24ヶ月後にスギに劣化が生じ、カラマツ、ヒノキと続いた。現在のところ、著しい劣化は認められないが、ヒノキ、スギ、カラマツの順に被害材の枚数が多い結果となっている。本研究は継続中であり、時間の経過にともなって

生物劣化は進行することが想定される。

第 31 号 : 1-8(2012)

大澤正嗣・神戸陽一・三浦 充・小佐野益代・渡辺真紀子「富士山北麓にはどのような樹種(品種)の植栽が適するか—カラマツ属各種、スギ精英樹および外国産樹種の生育について—」

富士山北麓標高 830m に位置する山梨県森林総合研究所富士吉田試験圏西原苗畑にて、スギ、カラマツ、及びその他数種類の樹木の生育状況を調査した。これらの樹種は、西原苗畑に植栽後 30-50 年間成長し、現在壮齢木となっている。それらの樹高と胸高直径を計測し、それを山梨県県有林収穫予想表のカラマツ、アカマツ、スギ、および“モミその他針葉樹”の地位区分“中”の各樹齢の樹高及び胸高直径とそれぞれ比較した。その結果、スギでは 20 品種が、収穫予想表と同等の生育を示した。その中で加賀 1 号が最も良好な生育であった。カラマツは良い生育を示すものが多く、特に *L. kaempferi* x *L. decidua* と *L. kaempferi* の 1 系統で生育が優れていた。その他の針葉樹では、ヨーロッパトウヒ、ヒマラヤスギ、およびストロブマツの生育が優れていた。

第 31 号 : 9-12(2012)

飯島勇人「山梨県の牧場とその周辺の森林におけるニホンジカの出没状況」

牧場をニホンジカがどの程度利用しているか明らかにするため、現在は放牧がおこなわれていない山梨県内の牧場内、牧場に近接する森林、牧場から離れた森林に自動撮影カメラを設置し、ニホンジカの撮影枚数を比較した。ニホンジカの撮影枚数は牧場で他の箇所よりも多かった。いずれの箇所でも、日中の撮影枚数は少なかった。撮影されるオス/メス比は月により変動し、繁殖期である 10 月にオス/メス比が高まる傾向が見られた。また、牧場内の方が牧場から離れた森林内よりも常にオス/メス比が低かった。

第 31 号 : 13-15(2012)

長池卓男・松崎誠司「ウラジロモミ—シラベ混交植栽人工林における列状伐採が直径成長に及ぼす影響」

列状伐採が行われた 46 年生のウラジロモミ—シラベ混交植栽人工林において、その後の胸高直径生長について解析を行った。2007 年の胸高直径の頻度分布は、シラベの方が有意に大きく、2007-2009 年の胸高直径成長もシラベの方が有意に大きかった。伐採列の端からの距離が離れる(すなわち、より残存列の内側になる)につれ、胸高直径成長が低減する傾向が両種ともに見られたが、ウラジロモミでのみ有意な関係が見られた。ウラジロモミの方がシラベよりも成長が劣り、列状伐採によって産み出された光環境の傾度への反応でも残存列の内側になる程成長が低減していることが明らかになった。両種を共存させるためには、競争緩和のための間伐が必要となるかもしれない。

第 31 号 : 17-22(2012)

三枝 茂・鈴木泰仁「地域の環境に適したスギ心持ち柱材の乾燥技術の確立—高温低湿処理と天然乾燥の組み合わせによる乾燥方法—」

製材直後のスギ心持ち無背割り柱材(12 cm 角×長さ 3 m)に材面割れ防止の高温低湿処理(乾球温度 120°C、湿球温度 90°C で 24 時間)を施し、その後エネルギー節約のために天然乾燥を行った。試験は南部町森林組合富士川木材共販所で冬季～夏季と夏季～秋季の 2 回行った。柱材の含水率が生材から 20% 近辺まで低下する期間は冬季～夏季では 5-6 ヶ月、夏季～秋季では 3-4 ヶ月程度必要であった。高温低湿処理後天然乾燥した柱材の材面割れは軽微なものもあったが、比較的目立つものもあった。曲

りや収縮などの変形は利用上支障となるものはなかった。材色は高温低湿処理により濃い変色が見られた。高温低湿処理による灯油の使用量は柱材1本当たり平均 2.91 リットルであった。

第 31 号 : 23-28(2012)

三枝 茂・鈴木泰仁「木造からくり掲示板」

身の回りの各種施設で掲示板を見かける場合がある。それらは大人に情報伝達をすることが目的であるため、箱形で味気のないものが多い。大人が掲示板を見ている最中、付き添われた子供は非常に退屈であると思われる。そこで、子供がほんの少し楽しめるからくり機能が付いた掲示板を製作した。本掲示板は木造で切妻屋根した親しみやすい建物である。掲示板内部にはからくりが 11 機組み込まれている。からくりは建物左右から出ている取っ手の付いたひもを引くと簡単に動作させることができる。

第 32 号 : 1-5(2013)

長池卓男「溪畔域のカラマツ人工林に天然更新した樹木の動態」

溪畔域の修復・再生を考えるために、溪畔域に造成されたカラマツ人工林の 6 年間の動態について明らかにし、近年顕著であるニホンジカによる樹木への摂食の影響を加味して、溪畔域の今後の推移について考察した。全体の立木密度は、未間伐林分では減少しているものの、間伐林分では増加していた。未間伐林分では、ウラジロモミ、カラマツ、ハシドイの減少が顕著であり、間伐が行われていないことによる自己間引きや被陰の影響と思われた。ハシドイは山梨県レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類に指定されているが、ハシドイへの剥皮は増加していたことから、ハシドイを残存した間伐を行い光環境を改善することや剥皮への保全対策が必要となる可能性がある。本調査地は、県内の他の地域に比較すれば剥皮の影響は甚大ではないが、溪畔域の修復・再生と希少種の保全を考えて、注視していく必要がある。

第 32 号 : 7-12(2013)

本多琢己「促進劣化試験における破壊じん性を指標とした LVL の耐久性評価」

低分子フェノール樹脂を含浸したアカマツロータリー単板を用い自己接着(接着剤を用いない)により熱圧成型する方法で強化 LVL を作製した。促進劣化試験における破壊じん性の劣化を指標として、耐久性を評価した。促進劣化試験は 4 hr 煮沸→60°C20hr 乾燥の処理を 1、3、5 および 10 サイクル繰り返した。破壊じん性試験は、TL システムのモード I の場合について行い、応力拡大係数 K_{Ic} を算出した。応力拡大係数はいずれの試験体においても処理の繰り返しの伴って、圧縮率に対する差が縮小するように低下した。厚さ膨潤率は含浸率 53.5%以上ではほとんど増加が認められなかった。これに対して、含浸率 30.9%—圧縮率 50%では、全条件中において厚さ膨潤率が最大であった。促進劣化試験の結果を基に処理回数と応力拡大係数残存率との関係を求めた。応力拡大係数残存率は試験前の応力拡大係数を 100%として算出した。応力拡大係数残存率が半減、すなわち 50%となるサイクル数は、一部の試験体を除いて 10 サイクル以上であった。

第 32 号 : 13-18(2013)

本多琢己「屋外暴露試験における破壊じん性を指標とした LVL の耐久性評価」

低分子フェノール樹脂を含浸したアカマツロータリー単板を用い自己接着(接着剤を用いない)により熱圧成型する方法で強化 LVL を作製した。屋外暴露試験における破壊じん性の劣化を指標として、耐久性を評価した。屋外暴露試験は、2009 年 11 月に開始し 2011 年 11 月まで行った。破壊じん性試験は、TL システムのモード I の場合について行い、応力拡大係数 K_{Ic} を算出した。応力拡大係数はいずれの試

験体においても暴露期間の増加に伴って、圧縮率に対する差が縮小するように低下した。厚さ膨潤率は含浸率 53.5%以上ではほとんど増加が認められなかった。これに対して、含浸率 30.9% 圧縮率 50%では、全条件中において厚さ膨潤率が最大であった。屋外暴露試験の結果を基に暴露期間と応力拡大係数残存率との関係を求めた。応力拡大係数残存率は試験前の応力拡大係数を 100%として算出した。応力拡大係数残存率が半減、すなわち 50%となるサイクル数は、一部の試験体を除いて 30 ヶ月以上であった。

第 32 号 : 19-24(2013)

本多琢己「カラマツ同一等級構成集成材の割裂接着強さ」

2 液性接着剤を使用する集成材の製造において、接着強さのばらつきを小さくすることは、コスト的に有利であると考えられる。同一等級構成構造用集成材の接着性能を割裂強さで評価した。割裂強さは、同一構成内でも長さ方向のばらつきが大きかったが、比重と正の相関が認められた。割裂強さのばらつきの主な要因には、試験体の比重、ヤング係数や接着層の厚さなどが複合的にかかわっていると考えられる。API 樹脂で結合したカラマツ材の接着層の破壊じん性に及ぼす接着層の厚さの影響を調べた。測定範囲(0.1-0.5 μm)内では破壊じん性は接着層の厚さに比例して大きくなった。日常的に生産されている構造用集成材に用いられるカラマツラミナの長さ方向のヤング係数の変動を明らかにした。ラミナ内ヤング係数の平均値と最小値の差が大きい傾向がみられた。

第 33 号 : 1-4(2014)

飯島勇人「北沢峠の森林とのり面におけるニホンジカの出没状況」

高山帯に進出する可能性があるニホンジカがどのような生息地を利用しているのかを明らかにするため、南アルプス国立公園内の標高 2000m 付近と 2500m 付近の森林およびのり面に自動撮影カメラを設置し、ニホンジカの撮影枚数を比較した。ニホンジカの撮影枚数は、標高 2500m の森林では夏季にわずかに見られたのみであった。一方、標高 2000m の森林とのり面では標高 2500m の森林より撮影枚数が多く、のり面の方が晩秋や融雪期など餌資源が不足する時期に撮影枚数が多くなっていた。また、ニホンジカと餌資源が類似しているニホンカモシカの撮影枚数は森林では通年で少なく、のり面では厳冬期でも撮影されていた。晩秋や融雪期ののり面は、高山帯に進出する可能性があるニホンジカを効率的に捕獲できる可能性が示唆された。

第 33 号 : 5-8(2014)

長池卓男・飯島勇人・大津千晶・松崎誠司「南アルプス国立公園北岳周辺におけるニホンジカの樹木への剥皮の状況」

南アルプス国立公園の北岳周辺における森林へのニホンジカの影響の現状について報告した。剥皮率は、落葉広葉樹林で最も高く、次いで亜高山帯針葉樹林、ダケカンバ林の順であった。どの森林タイプでも、2008 年よりも 2012 年で剥皮率が高かった。特にダケカンバ林では、2008 年には剥皮は皆無であったが 2012 年には剥皮が見られるようになっていた。剥皮された幹数は、全体で 2008 年の 48 本から 2012 年の 77 本に増加し、特に、落葉広葉樹林でのオオイタヤメイゲツ、ダケカンバ林・亜高山帯針葉樹林でのオオシラビソ・シラベで増加していた。亜高山帯針葉樹林とダケカンバ林では、山梨県内で甚大な影響が及んでいる林分に比較すれば剥皮が軽微であるものの、剥皮幹数・率ともに増加しており、今後注視していく必要がある。特に、標高の高いダケカンバ林は、高山帯直下であること、隔離的に少数定着しているオオシラビソ・シラベが剥皮されていることから、今後のモニタリングが必要とされる。

第 33 号 : 9-13(2014)

長池卓男「ヤエガワカンバが出現するミズナラ二次林における 10 年間の林分動態」

ヤエガワカンバを含むミズナラ二次林での、ニホンジカによる影響も考慮した 10 年間の動態を示した。全体の立木密度、胸高断面積合計は、2003 年から 2008 年には増加、2008 年から 2013 年には減少していた。最も優占していたミズナラは、立木密度は減少し胸高断面積合計と平均胸高直径は増加、シラカンバとヤエガワカンバでは、立木密度、胸高断面積合計で減少し平均胸高直径は増加していた。胸高直径階分布については、3 樹種とも、細い直径階での立木密度が減少していた。立木密度で計算した全樹種での加入率と死亡率は、2003-2008 年では加入率が死亡率を上回り、2008-2013 年では死亡率が加入率を上回っていた。両期とも死亡率が加入率を上回っていた樹種は、シラカンバ、ミズナラ、ヤエガワカンバであり、いずれも 2008-2013 年の方が大きく上回っていた。ニホンジカに剥皮されている幹数および種数は増加していたが、県内の他の地域に比較すれば剥皮の影響は甚大ではなかった。ミズナラの発達とともにヤエガワカンバが衰退していく可能性があるため、更新による新規加入個体の確保や現存する個体の維持等の管理が必要となるかもしれない。

第 33 号 : 15-18(2014)

本多琢己「API 樹脂で接着したカラマツ材の接着性に及ぼす接着条件の影響」

2 液性接着剤を使用する集成材の製造において、接着強さが低下する条件を解明することは、コスト的に有利であると考えられる。木材接着試験においては、木部破断率の割合が高い場合、接着性能を正しく評価することが難しい。そこで、クロスラップ試験片による引張り試験を行った。クロスラップ引張り強さと接着剤フィルムの物性に及ぼす養生時間、養生温度の影響を調べた。水性高分子イソシアネート系樹脂接着剤は、架橋剤の添加量を標準以下とし、接着作業で想定される 10°C、20°C および 30°C で硬化させた。クロスラップ引張り強さは養生温度の上昇または養生時間の経過とともに増加した。30°C で硬化させた場合、他の温度で硬化させるよりもクロスラップ引張り強さが小さかった。接着剤フィルムの引張り試験の測定値は養生温度の上昇または養生時間の経過とともに増加した。接着剤の硬化に伴う試験片の重量変化は、クロスラップ引張り強さの発現を間接的に表していると考えられる。

第 34 号 : 1-4(2015)

大澤正嗣「富士山麓におけるトウヒツヅリヒメハマキ(*Epinotia piceae*(Isshiki))の大発生とその後の個体数変動」

2001 年に富士山麓で大発生し、シラビソ人工林に大きな被害を与えたトウヒツヅリヒメハマキのその後の個体数の変動を、幼虫と成虫について 2004 年~2014 年の間調査した。2001 年の大発生後、本害虫個体数は急減し、2004 年には僅かとなった。2009 年まで個体数は低密度で推移したが、2010 年から増加を開始し、2012 年にピークとなった。調査林分別に見ると、ピークは 2011 年~2013 年の間であり、林分により年単位で異なっていた。その後個体数は減少し、2014 年には低密度となった。トウヒツヅリヒメハマキは 8~12 年の周期で増減を繰り返している可能性がある。2013 年には山形県蔵王の地蔵山で本害虫の大発生があり、このことから、富士山と地蔵山を含む広い範囲でトウヒツヅリヒメハマキの個体数の増減が同調している可能性が考えられた。

第 34 号 : 5-8(2015)

長池卓男「整理伐されたシラカンバ二次林における 10 年間の林分動態」

整理伐が実施されたシラカンバ二次林の10年間の林分動態を調査し、ニホンジカの剥皮の影響について考察した。シラカンバの減少とミズナラの増加、新規加入はヒトツバカエデとウワミズザクラが多いがそのほとんどでニホンジカにより剥皮されていたことが明らかとなった。今後は、シラカンバの優占度がさらに下がり、ミズナラ林への移行が推測される。しかしながら、ミズナラ、ヒトツバカエデやウワミズザクラも、ニホンジカによって剥皮される樹種であるため、将来的に森林として維持されるかは今後も注視していくことが必要である。

第34号：9-18(2015)

大津千晶・岡部恒彦「山梨県森林総合研究所敷地内に出現した維管束植物目録」

山梨県森林総合研究所の敷地内に出現する野生植物の目録を作成した。調査の結果、100科222属302種(木本植物116種、草本植物186種)の維管束植物が記録された。出現した種は暖温帯から温帯にかけて生育する森林性の種や、草原性種、水田、畑、路傍に生育する雑草により構成されていた。

第34号：19-24(2015)

本多琢巳「API樹脂で接着したカラマツ材の接着性に及ぼす架橋剤の影響」

2液性接着剤を使用する集成材の製造において、主剤と架橋剤の配合比を最適化することは、コスト的に有利であると考えられる。本研究では、木材接着における破壊じん性と引張り強さに及ぼす架橋剤の添加量や硬化温度の影響を調べた。さらに破壊じん性と引張り強さの相互関係についても検討した。水性高分子イソシアネート系樹脂接着剤を様々な配合比で調整した。破壊じん性と引張り強さの測定には、それぞれ2重片持梁試験片およびクロスラップ試験片を用いた。破壊じん性は架橋剤を増加することにより大きくなるが、12%程度で飽和した。浸漬処理後の湿潤状態では、破壊じん性は著しく小さかった。一方、クロスラップ試験では、木部破断の割合がやや高いことから接着強さが木材自身の凝集力に依存するため、架橋剤の添加量との関係が不明瞭であった。接着剤フィルムの引張り特性は架橋剤の増加に伴って向上した。

第34号：25-28(2015)

大地純平「山梨県内針葉樹林を対象とした要間伐林分の抽出」

山梨県が有する県域衛星画像(IKONOS/GeoEye-1)を用い、針葉樹林を対象とした要間伐林分の抽出を行った。解析では5年以内に撮影された領域(「Geoeye-1衛星」2009年～2010年撮影)の画像を用い、撮影日ごとに対象領域を7領域に分割してそれぞれに対しオブジェクトベース分類による解析を行った。解析結果より、山梨県内対象領域における要間伐針葉樹林(広混交林も含む)は全面積の41%(針葉樹林のみを対象とした場合50%)に上る結果となった。

V. 昭和41年度以降の学会等への発表題名一覧

昭和40年度以前の発表題名は「山梨県林業試験場30年誌（昭和40年10月1日）」を参照

【学会誌】

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
雨宮嘉彦	1966	West Virginia州Allegheny山脈石灰岩質土壌のOak地位指数(抄録)	日本林学会誌	48
斉藤敬文	1966	バージニアパイン種子の成熟と発芽力に及ぼす所蔵処理の影響(抄録)	日本林学会誌	48
林 良次	1966	不確実な林木投資の分析(抄録)	日本林学会誌	48
古越隆信	1966	世界に分布しているマツ属の地理的分布(抄録)	日本林学会誌	48
古越隆信	1966	マツ人工交雑40種の植物学的記載(抄録)	日本林学会誌	48
林 良次	1966	林業への山村民の経営意識	日本林学会大会	77
古越隆信	1967	林木の人工交配に関する研究(2)温湯処理による雄花の洗浄	日本林学会誌	49
古越隆信	1967	希釈した花粉を用いたマツ類の交雑(抄録)	日本林学会誌	49
古越隆信	1968	氷点下の温度で5年間貯蔵したマツの花粉から得たタネ(抄録)	日本林学会誌	50
大橋邦夫	1974	開発と林業、ゴルフ場建設問題	林業経済	303
柴田 尚ほか	1984	トモエシオガマを中間宿主とするアカマツの <i>Cronartium</i> 属菌について	日本菌学会会報	25
藤本登留ほか	1985	予備加熱による生材接着(1)	日本木材学会誌	31
藤本登留ほか	1985	予備加熱による生材接着(2)	日本木材学会誌	31
清藤城宏	1987	富士山麓青木ヶ原におけるヒノキ天然林のアイソザイム変異	日本林学会誌	69
清藤城宏	1990	アイソザイム遺伝子をマーカーとした天然林の繁殖構造の解析	日本林学会誌	72
大澤正嗣ほか	1991	カラマツ根株心腐病菌の樹幹内での進展	日本林学会誌	73
大澤正嗣	1992	Ability of fungi inhabiting larch trunks with butt-rot to utilize wood components in vitro	日本林学会誌	74
西川浩己・井出雄二	1993	タカネピランジの大量増殖	植物組織培養	10
菊地政泰	1993	富士山なだれ跡地の植生遷移	日本緑化工学会誌	
大澤正嗣	1994	Heart-rot in old-growth larch forests (1) State of damage and stand conditions of Japanese larch forests at the foot of Mt. Fuji	日本林学会誌	76
大澤正嗣ほか	1994	カラマツ人工林内の根株心腐病による幹折れ被害	日本林学会誌	76
田中 格ほか	1995	複層林下ホヒノキの当年生葉における比葉面積、光合成能力およびクロロフィルa・b比	森林立地	36
松谷 順ほか	1995	山梨県の名水	地下水学会誌	37
大澤正嗣ほか	1996	Stem-rot damage and the progress of causal fungi in old-aged Japanese larch trees at the foot of Mt. Fuji	Journal of Forest Research	1
西川浩己・井出雄二	1996	オノオレカンバ冬芽の培養によるクローン大量増殖	日本林学会誌	78
大澤正嗣ほか	1997	カラマツ幹心腐病の接種試験	樹木医学研究	
小澤雅之ほか	1997	竹材の震動特性に及ぼす維管束鞘の体積率の影響	日本木材学会誌	43
柴田 尚ほか	1998	Transfer of radiocesium and stable cesium from substrata to mushroom in pine forest in Rokkasho-mura, Aomori, Japan	Journal of Environmental Radioactivity	39
柴田 尚ほか	1998	Influence of alkali elements on the accumulation of radiocesium by mushrooms	Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry	235
大澤正嗣ほか	1998	Ophistomatoid fungi associated with <i>Ips cembrae</i> in Japan and their pathogenicity to Japanese larch	Mycoscience	39
長池卓男ほか	1999	The effects of shelterwood logging on the diversity of plant species in a beech (<i>Fagus crenata</i>) forest in Japan	Forest Ecology and Management	118
大澤正嗣ほか	1999	Comparisons of ophistomatoid fungi associated with <i>Timicus piniperda</i> and <i>T. minor</i> in Japanese red pine	Journal of Forest Research	4
小澤雅之ほか	1999	Bending creep behavior of wood under cyclic moisture changes	Journal of Wood Science	45
田中 格ほか	1999	日本産広葉樹41樹種の当年生陽葉における最大ガス交換速度のスクリーニング	森林立地	41
小澤雅之ほか	1999	水分変化過程における木材の曲げクリープ挙動と構造因子との関係	日本木材学会誌	45
大澤正嗣	2000	Fungi associated with <i>Dendroctonus rufipennis</i> and <i>Polygraphus rufipennis</i> and white spruce inoculation tests	Canadian Journal of Plant Pathology	22
小澤雅之	2000	Bending creep behavior of hot-pressed wood under cyclic moisture change condition	Journal of Wood Science	46

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
清藤城宏	2000	Determination of the selfing rate in a hinoki seed orchard by using a chloroplast PCR-SSCP marker	Silva Genetica	49
清藤城宏	2000	山梨県ヒノキ採種園における鯨沢5号の花粉親としての寄与	日本林学会誌	82
清藤城宏	2000	葉緑体DNAマーカーのヒノキにおける選択受精の検証	日本林学会誌	82
長池卓男	2000	人工林生態系における植物種多様性	日本林学会誌	82
清藤城宏ほか	2001	Pollen dispersal in a hinoki (<i>Chamaecyparis obtusa</i>) seed orchard using a chloroplast DNA marker	Journal of Forest Research	6
柴田 尚	2001	Three species of <i>Cortinarius</i> subgenus <i>Phlegmacium</i> new to Japan	Mycoscience	42
長池卓男	2002	Differences in plant species diversity between conifer (<i>Larix kaempferi</i>) plantation and broad-leaved (<i>Quercus crispula</i>) secondary forest in central Japan	Forest Ecology and Management	168
大澤正嗣ほか	2002	Ophistomatoid fungi associated with bark beetles on <i>Abies veitchii</i> in wave-regenerated forests	Journal of Forest Research	7
田中 格	2002	落葉広葉樹7種の陽葉と陰葉における光-光合成曲線の曲率	日本生態学会誌	52
田中 格ほか	2002	光環境の変化に伴う落葉広葉樹10種の個葉の解剖学的構造の変化	日本生態学会誌	52
長池卓男	2002	森林管理が植物種多様性に及ぼす影響	日本生態学会誌	51
長池卓男	2003	Edge effects on stand structure and regeneration in a subalpine coniferous forest on Mt. Fuji, Japan, 30 years after road construction	Arctic, Antarctic, and Alpine Research	35
長池卓男・林 敦子	2003	Bark-stripping by sika deer (<i>Cervus nippon</i>) in <i>Larix kaempferi</i> plantations in central Japan	Forest Ecology and Management	175
長池卓男・林 敦子ほか	2003	Differences in plant species diversity in <i>Larix kaempferi</i> plantations of different ages in central Japan	Forest Ecology and Management	183
長池卓男ほか	2003	Plant species diversity in abandoned coppice forests in a temperate deciduous forest area of central Japan	Plant Ecology	166
大澤正嗣	2004	Comparison of elaterid biodiversity among larch plantations, secondary forests, and primary forests in the central mountainous region of Japan	Annals of Entomological Society of America	97
長池卓男・林 敦子	2004	Effects of extending rotation period on plant species diversity in <i>Larix kaempferi</i> plantations in central Japan	Annals of Forest Science	61
大澤正嗣	2004	Species richness of Cembrycidae in larch plantations and natural broad-leaved forests of the central mountainous region of Japan	Forest Ecology and Management	189
柴田 尚	2004	<i>Cortinarius rubellus</i> a poisonous species new to Japan	Mycoscience	45
長池卓男ほか	2005	Effects of different forest management systems on plant species diversity in a <i>Fagus crenata</i> forested landscape of central Japan	Canadian Journal of Forest Research	35
大澤正嗣	2005	Species richness and composition of Curculionidae (Coleoptera) in a conifer plantation, secondary forest in the central mountainous region of Japan	Ecological Research	20
柴田 尚ほか	2005	Accumulation of radiocesium in wild mushrooms collected from a Japanese forest and cesium uptake by microorganisms isolated from the mushroom-growing soils	Science of the Total Environment	345
大澤正嗣・長池卓男	2006	Influence of forest types and effects of forestry activities on species richness and composition of Chrysomelidae in the central mountainous region in Japan	Biodiversity and Conservation	15
長池卓男・林 敦子・久保満佐子ほか	2006	Changes in plant species diversity over 5 years in <i>Larix kaempferi</i> plantations and abandoned coppice forests in central Japan	Forest Ecology and Management	236
長池卓男・林 敦子・久保満佐子ほか	2006	Plant species diversity in a managed forest landscape composed of <i>Larix kaempferi</i> plantations and abandoned coppice forests in central Japan	Forest Science	52
長池卓男ほか	2006	Ecology and management of conifer plantations in Japan: control of tree growth and maintenance of biodiversity	Journal of Forest Research	11
大澤正嗣	2007	The role of isolated old oak trees in maintaining beetle diversity within larch plantations in the central mountainous region of Japan	Forest Ecology and Management	250
長池卓男	2007	森林生態系の多様性維持における枯死木の役割と管理	樹木医学研究	11
久保満佐子・長池卓男	2007	山梨県甘利山におけるレンゲツツジ <i>Rhododendron japonicum</i> の開花と萌芽の生残に及ぼす要因	日本緑化工学会誌	33

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
大澤正嗣	2008	Different effects of coarse woody material on the species diversity of three saproxylic beetle families (Cerambycidae, Melandryidae, and Curculionidae)	Ecological Research	23
長池卓男	2009	Snag abundances and species composition in a managed forest landscape in central Japan composed of <i>Larix kaempferi</i> plantations and secondary broadleaf forests	Silva Fennica	88
長池卓男ほか	2010	Diversity of naturally regenerating tree species in the overstory layer of <i>Larix kaempferi</i> plantations and abandoned broadleaf coppice stands in central Japan	Forestry	83
長池卓男	2010	Effects of altitudinal gradient on species composition of naturally regenerated trees in <i>Larix kaempferi</i> plantations in central Japan	Journal of Forest Research	15
長池卓男ほか	2010	Is it necessary to change number of samples for different forest types when evaluating plant species richness? A case study in a forested landscape in central Japan	Journal of Forest Research	15
大澤正嗣	2010	Beetle families as indicators of Coleopteran diversity in forests: a study using Malaise traps in the central mountainous region of Japan	Journal of Insect Conservation	14
大澤正嗣ほか	2011	Extending the rotation period in larch plantations increases canopy heterogeneity and promotes species richness and abundance of native beetles: implications for the conservation of biodiversity	Biological Conservation	144
柴田 尚ほか	2011	土壌-作物系における放射性核種の挙動	日本土壌肥科学雑誌	82
長池卓男	2012	Effects of browsing by sika deer (<i>Cervus nippon</i>) on subalpine vegetation at Mt. Kita, central Japan	Ecological Research	27
長池卓男ほか	2012	Interactive influences of distance from seed source and management practices on tree species composition in conifer plantations	Forest Ecology and Management	283
長池卓男	2012	Review of plant species diversity in managed forests in Japan	ISRN Forestry	2012
長池卓男	2012	混交植栽人工林の現状と課題-物質生産機能に関する研究を中心に-	日本森林学会誌	94
飯島勇人・長池卓男ほか	2013	Estimation of deer population dynamics by Bayesian state-space model with multiple abundance indices	Journal of Wildlife Management	77
大澤正嗣・柴田 尚ほか	2013	山梨県におけるモモの木材腐朽菌の発生	関東東山病虫研究会報	60
柴田 尚ほか	2013	福島第一原子力発電所事故前後の富士山野生きのこ子実体中の放射性セシウム濃度	日本菌学会報	54
大澤正嗣ほか	2014	Possible altitude and temperate limits on pine wilt disease: the reproduction of vector sawyer beetles (<i>Monochamus alternatus</i>), survival of causal nematodes (<i>Bursaphelenchus xylophilus</i>), and occurrence of damage caused by the disease	European Journal of Forest Research	133
長池卓男ほか	2014	Vegetation recovery in response to the exclusion of grazing by sika deer (<i>Cervus nippon</i>) in seminatural grassland on Mt. Kushigata, Japan	ISRN Biodiversity	2014

【学会発表】

雨宮嘉彦・馬場勝馬・齊藤敬文	1966	土壌の性質と林木の生長(14)甘利山付近のヒノキ林	日本林学会関東支部大会	18
安藤愛次・遠藤 昭・雨宮嘉彦	1966	山梨県土壌図の作成	日本林学会関東支部大会	18
長田十九三・広瀬弘江	1966	マキツケ床における除草剤の施用効果	日本林学会関東支部大会	18
小池恒男	1966	韮崎森林計画区におけるアカマツ林分収穫表	日本林学会関東支部大会	18
小林福治・遠藤 昭・安藤愛次	1966	秩父山地のシラベ林の生育	日本林学会関東支部大会	18
馬場勝馬・安藤愛次	1966	寒地性樹種の造林成績	日本林学会関東支部大会	18
渡瀬 彰・遠藤 昭	1966	カラマツ落葉病の抵抗性クローン	日本林学会関東支部大会	18
雨宮嘉彦・安藤愛次・遠藤 昭・林 良次	1966	山梨県東部におけるスギ林の生産力の推定	日本林学会大会	77

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
小林福治・遠藤 昭・中沢正之	1966	植栽方法に関する研究(2)植栽方法をかえたスギの施肥効果	日本林学会大会	77
馬場勝馬・安藤愛次・遠藤 昭	1966	山梨県におけるストロームツの造林成績	日本林学会大会	77
林 良次	1966	林業経済立地分級図の作成(1)	日本林学会大会	77
古越隆信・斉藤敬文	1966	亜高山生樹種の発芽特性について	日本林学会大会	77
古越隆信・斉藤敬文	1966	外国産マツ類の育苗上の特性	日本林学会大会	77
渡瀬 彰・遠藤 昭	1966	カラマツメタマバエについての2, 3の知見	日本林学会大会	77
安藤愛次	1967	Studies o the productivity of the forests land in the central mountain district	IUFRO World Congress	14
雨宮嘉彦・遠藤 昭	1967	土壌の性質と林木の生長(15)富士山と秩父地域のカラマツ林	日本林学会大会	78
遠藤 昭・渡瀬 彰	1967	根株腐朽と立地(5)カラマツ生立木への心腐れ病菌の接種	日本林学会大会	78
長田十九三・古越隆信	1967	カラマツ当年生苗の伸長促進、とくに秋まき、マルチの効果	日本林学会大会	78
小池恒男	1967	山梨県におけるシイタケ栽培の経営経済的考察(1)産地形成の背景	日本林学会大会	78
小林福治・遠藤 昭・安藤愛次	1967	11年生スギ林の肥効	日本林学会大会	78
馬場勝馬・安藤愛次・遠藤 昭	1967	寒害危険度の推定に関する試案	日本林学会大会	78
秋山喜蔵	1968	材種別生産能率と製材機別能力	日本林学会関東支部大会	20
雨宮嘉彦	1968	施用量を変した除草剤による下刈試験	日本林学会関東支部大会	20
遠藤 昭・渡瀬 彰	1968	薬剤によるウサギの忌避	日本林学会関東支部大会	20
長田十九三・古越隆信	1968	ミスト装置による林木のさし木	日本林学会関東支部大会	20
小林福治・遠藤 昭	1968	富士山北麓のシラベ林の成長	日本林学会関東支部大会	20
斉藤勲次	1968	県有林産物の求投出型態と林道密度の関連性	日本林学会関東支部大会	20
中島政光	1968	刈払機の作業方法と現地適応性	日本林学会関東支部大会	20
馬場勝馬	1968	山梨県における寒害危険度の推定	日本林学会関東支部大会	20
向山恒雄・土橋 博	1968	木材の平衡含水率試験	日本林学会関東支部大会	20
渡瀬 彰・遠藤 昭	1968	山梨県北部のカラマツマダラメイガ	日本林学会関東支部大会	20
渡辺利一・八代雄三	1968	カラマツの幼齢木の材質	日本林学会関東支部大会	20
雨宮嘉彦	1968	林地除草剤によるニセアカシアの枯殺	日本林学会大会	79
雨宮嘉彦・安藤愛次	1968	土壌の性質と林木の生長 (XVI) 山梨県のカラマツ林の生産性	日本林学会大会	79
遠藤 昭・渡瀬 彰	1968	山梨県に発生したカラマツマダラメイガの防除	日本林学会大会	79
長田十九三・古越隆信	1968	ウラジロモミの発芽促進一特に秋まきマルチの効果	日本林学会大会	79
小林福治・遠藤 昭・中沢正之	1968	スギ山出苗の大きさと生育	日本林学会大会	79
中村尚夫・遠藤 昭・渡瀬 彰	1968	富士山県有林におけるカラマツ球果の害虫	日本林学会大会	79
馬場勝馬・安藤愛次・遠藤 昭	1968	山梨県林業気象図の作成に関する検討	日本林学会大会	79
古越隆信	1968	林木の人工交配に関する研究(III)エチルアルコールによる雄花の洗浄	日本林学会大会	79
古越隆信・安藤稜威雄	1968	ウラジロモミと冷処理機関と発芽率	日本林学会大会	79
渡瀬 彰・遠藤 昭	1968	グラフトカーボン面熱体によるシイタケの芽出し	日本林学会大会	79
古越隆信・長田十九三	1968	ポプラ9系統の適応性試験一とくにヤセ地に対する適応一	日本林学会大会	79
雨宮嘉彦	1969	造林不適な尾根線の分布	日本林学会関東支部大会	21
安藤稜威雄	1969	林業地域区分に関する一試案	日本林学会関東支部大会	21
石原義久・秋山嘉蔵	1969	ツガ材の丸太材積表による材積と実材積	日本林学会関東支部大会	21
遠藤 昭	1969	根株腐朽と立地(6)野呂川流域のコメツガ林	日本林学会関東支部大会	21
長田十九三・広瀬弘江	1969	外国産マツ類の造林成績	日本林学会関東支部大会	21
小林福治・遠藤 昭	1969	植栽方法に関する研究(4)苗木の形質と生活	日本林学会関東支部大会	21

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
斉藤勲次	1969	山梨県南部におけるモウソウ竹林の実態調査について(予報)	日本林学会関東支部大会	21
馬場勝馬・安藤愛次・遠藤 昭	1969	天然生と植えかえたアカマツの幼令林の生育	日本林学会関東支部大会	21
渡辺利一	1969	輸入材5種の基礎材質	日本林学会関東支部大会	21
菊地政泰	1969	山梨県芦川地域の山地崩壊について	日本林学会関東支部大会	21
雨宮嘉彦・安藤愛次	1969	土壌の性質と林木の生長 (XVII) 花崗岩類地帯におけるカラマツ林	日本林学会大会	80
遠藤 昭・渡瀬 彰	1969	富士山東北ろくらのウラジロモミてんぐ巣病	日本林学会大会	80
長田十九三・古越隆信	1969	雑種カラマツの生育特性(II) 東洋産雑種カラマツ	日本林学会大会	80
小林福治・遠藤 昭	1969	野呂川流域におけるシラベ林の生育	日本林学会大会	80
清藤城宏・古越隆信・長田十九三	1969	シラベ種子の採種適期	日本林学会大会	80
馬場勝馬・安藤愛次・遠藤 昭	1969	山梨県における流域別の降水量の推定と2, 3の考察	日本林学会大会	80
古越隆信	1969	雑種カラマツの生育特性(I) ヨーロッパ産雑種カラマツのクローン検定	日本林学会大会	80
渡瀬 彰ほか	1969	富士山県管有料道路施工跡地における植物の動態	日本林学会大会	80
雨宮嘉彦	1970	山梨県におけるカラマツ林の生産力の推定	日本林学会関東支部大会	23
遠藤 昭・渡瀬 彰	1970	DEP粉剤によるカラマツダラメイガの防除	日本林学会関東支部大会	23
清藤城宏	1970	シラベ花粉の形成と採取適期	日本林学会関東支部大会	23
馬場勝馬	1970	低温処理によるスギの耐寒性クローンの検定	日本林学会関東支部大会	23
渡辺利一	1970	ヒノキ造林木の枝節性	日本林学会関東支部大会	23
長田十九三	1970	ウラジロモミ、シラベ種子の標高による変異	日本林学会大会	81
馬場勝馬	1970	自然条件下で淘汰したスギの品種およびクローンの耐凍性の検定	日本林学会大会	81
菊地政泰	1970	台風26号による山梨県の地形性雨量の推定	日本林学会大会	82
遠藤 昭ほか	1972	根株腐朽と立地(7)富士山北ろくらのカラマツ人工林	日本林学会関東支部大会	24
長田十九三	1972	苗木の灌水効果	日本林学会関東支部大会	24
清藤城宏	1972	シラベの球果とタネ	日本林学会関東支部大会	24
依田和幸ほか	1972	スギ在来品種の育林成績	日本林学会関東支部大会	24
長田十九三ほか	1973	カラマツ落葉病のクローンによる感受性のちがい	日本林学会大会	84
馬場勝馬	1973	スギの耐寒性とコロイド滴定法による陰性コロイドとの関係	日本林学会大会	84
神戸陽一・長田十九三	1974	除草剤施用が林地に及ぼす影響	日本林学会関東支部大会	26
清藤城宏	1974	初期における人工交雑スギの生育	日本林学会大会	85
清藤城宏	1975	ヒノキにおける2, 3の着花処理	日本林学会関東支部大会	27
名取 潤・渡辺利一	1975	カラマツ材のタテ取縮	日本林学会関東支部大会	27
花房 尚	1975	ヒノキ幼令造林地における凍害と苗木形質	日本林学会関東支部大会	27
依田和幸	1975	亜高山帯の荒廃地における緑化復元手法 (1) -生活型から見た緑化復元-	日本林学会関東支部大会	27
名取 潤・渡辺利一	1976	高含水率カラマツ間伐、樹梢材の集成化	日本木材学会大会	26
渡辺利一・名取 潤	1976	天然カラマツ樹幹内の旋回木理	日本木材学会大会	26
名取 潤・渡辺利一	1976	天然カラマツの材質(2報)-天然カラマツの仮道管長-	日本林学会関東支部大会	28
菊地政泰	1976	林道盛土の締固め密度と2, 3の土質試験	日本林学会大会	87
名取 潤・渡辺利一	1977	高含水率カラマツ間伐、樹梢材の集成化(2)	日本木材学会大会	27
清藤城宏	1977	スギ採種園における花粉飛散	日本林学会関東支部大会	29
花房 尚	1977	集植、束植の寒害防除効果について	日本林学会関東支部大会	29
清藤城宏	1977	スギ採種園における花粉密度が種子の総性に及ぼす影響	日本林学会大会	87
名取 潤・渡辺利一	1978	カラマツ集成材用ラミナの材面の節の特徴について	日本木材学会大会	28
渡辺利一ほか	1978	カラマツ間伐材をコアーにした構造用集成材の品質	日本木材学会大会	28

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
菊地政泰ほか	1978	山腹緑化工施工跡地の植生遷移について	日本林学会関東支部大会	30
大橋邦夫	1978	山梨県有林における戦後の人工造林展開 (I)	日本林学会大会	89
清藤城宏	1978	スギ採種園における自然自殖率の推定	日本林学会大会	89
菊地政泰	1978	林道路床土のC.B.R値と土質諸係数との統計的検討	日本林学会大会	89
名取 潤	1979	天然カラマツの材質(第3報)カラマツ樹幹内における垂直樹脂道の分布	日本林学会関東支部大会	31
大橋邦夫	1979	山梨県有林における戦後の人工造林展開 (II)	日本林学会大会	90
花房 尚ほか	1979	カラマツ造林地の林分構造と保育方法(1)	日本林学会大会	90
花房 尚ほか	1979	カラマツ造林地の林分構造と保育方法(2)	日本林学会大会	90
菊地政泰	1979	林道路盤におけるベンゲルマン、たわみ量と路床土の土質特性	日本林学会大会	90
名取 潤ほか	1980	高含水率カラマツ間伐・樹梢材の集成化(3)	日本木材学会大会	30
名取 潤	1980	生材時に集成化された集成材の接着性能について	日本木材学会木材接着研究会	1
清藤城宏	1980	スギ採種園における開花期について	日本林学会関東支部大会	32
名取 潤ほか	1980	カラマツ幼令木の材質(1)繊維傾斜度と心持材のねじれ	日本林学会関東支部大会	32
花房 尚ほか	1980	カラマツ精英樹クローンにおける繊維傾斜	日本林学会関東支部大会	32
渡辺利一ほか	1980	天然カラマツの材質、強度的性質	日本林学会関東支部大会	32
清藤城宏	1980	ヒノキ採種園における開花期のクローン間差異	日本林学会大会	91
名取 潤ほか	1981	生材接着による集成加工 (I)断面形状と接着層のはく離	日本木材学会大会	31
名取 潤ほか	1981	生材接着による集成加工 (II)接着性能と接着力の立ち上がりについて	日本木材学会大会	31
名取 潤	1981	生材接着の耐久性	日本木材学会木材接着研究会	2
大橋邦夫	1981	山梨県有林の造林労働力編成	日本林学会関東支部大会	33
長田十九三ほか	1981	富士山なだれ跡地の更新に関する研究(1)	日本林学会関東支部大会	33
清藤城宏	1981	スギ採種園における受粉条件	日本林学会関東支部大会	33
名取 潤	1981	広葉樹小径材の繊維長の水平方向の変動	日本林学会関東支部大会	33
萩野 務ほか	1981	22年生ストロブマツの生態	日本林学会関東支部大会	33
渡辺利一ほか	1981	カラマツ丸太の山元乾燥	日本林学会関東支部大会	33
菊地政泰ほか	1982	南アルプス林道の法面植生について	日本林学会関東支部大会	34
菊地政泰ほか	1982	山地地域における河川水の汚濁に関係する流域因子について	日本林学会九州支部	38
大橋邦夫	1982	山梨県有林の造林労働力編成と林業労働者	日本林学会大会	93
藤本登留	1983	ドライドスキン余熱利用による生材接着	日本木材加工技術協会年次大会	1
藤本登留ほか	1983	熱圧による表面乾燥と接着効果について	日本木材学会大会	33
菊地政泰ほか	1983	富士スバルライン沿いのなだれ跡地の更新	日本林学会関東支部大会	35
清藤城宏	1983	ヒノキ採種園における着果習性と受粉適期	日本林学会関東支部大会	35
名取 潤ほか	1983	カラマツ心去り角材の品質 (II) 強度	日本林学会関東支部大会	35
馬場勝馬	1983	ヨーロッパトウヒ林に発生したつちくらげ病	日本林学会関東支部大会	35
渡辺利一ほか	1983	カラマツ心去り角材の品質 (I) 乾燥に伴う形質変化	日本林学会関東支部大会	35
名取 潤ほか	1984	生材接着による低質材の高度利用	日本木材加工技術協会年次大会	2
名取 潤ほか	1984	生材接着による集成加工 (III)	日本木材学会大会	34
名取 潤ほか	1984	生材接着による集成加工 (IV)	日本木材学会大会	34
藤本登留ほか	1984	熱風乾燥による生材接着	日本木材学会大会	34
藤本登留ほか	1984	若齢小径スギからの生晩板の熱圧処理によるCVP変形抑制と接着効果	日本木材学会大会	34
大橋邦夫	1984	山梨県有林の戦前期の経営展開	日本林学会大会	95
柴田 尚ほか	1985	アカマツ上にさび胞子堆を形成する1さび菌について	日本菌学会大会	29

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
名取 潤ほか	1985	生材接着による集成加工(5)	日本木材学会大会	35
名取 潤	1985	生材接着による低質材の高度利用	日本木材学会木材接着研究会	6
清藤城宏	1985	ジベレリン処理によって得られた凶作年のヒノキ種子	日本林学会関東支部大会	36
滝 貢ほか	1985	亜高山天然林の漸伐作業における変形H架線の適用	日本林学会関東支部大会	36
田中 格ほか	1985	亜高山地帯における漸伐施業地の天然更新 (I)	日本林学会関東支部大会	36
大橋邦夫	1986	転換期の林業経営と今後の政策的課題	日本林学会関東支部大会	37
大橋邦夫	1986	カラマツ林業地帯の最近の林業経営	日本林学会関東支部大会	38
田中 格ほか	1986	広葉樹林における地形の違いと林分構造	日本林学会関東支部大会	37
田中 格ほか	1986	荒川上流におけるミズナラ林の林分構造と生長	日本林学会関東支部大会	38
名取 潤ほか	1986	マツ枯損状況の実態調査	日本林学会関東支部大会	38
柴田 尚	1987	富士山シラベ林の菌根性高等菌類	日本菌学会大会	31
名取 潤ほか	1987	マツクイムシ枯損材の材質(I)製材した晩材の材質	日本木材学会大会	36
名取 潤ほか	1987	生材接着による集成加工 (VI)	日本木材学会大会	37
藤本登留ほか	1987	マツクイムシ枯損材の材質(II)強度性能	日本木材学会大会	36
菊地政泰ほか	1987	57年10号台風による山梨県有林の山地崩壊の発生要因とその解析	日本林学会大会	98
大澤正嗣	1988	Fungal succession in Japanese larch trunks with butt-rot and utilization of wood components	International Congress of Plant pathology	5
柴田 尚	1988	富士山亜高山帯針葉樹林の菌根性高等菌類	日本菌学会関東支部大会	40
田中 格	1988	整理伐実行後の広葉樹の育成状況—整理伐実行3年後の調査結果—	日本林学会関東支部大会	40
清藤城宏	1988	ヒノキ天然林の遺伝構造	日本林学会大会	99
田中 格	1988	富士山シラベ林の枝打ち試験	日本林学会大会	99
大澤正嗣ほか	1988	X線診断装置(コンピュータ断層撮影)によるカラマツ樹幹内の根株心腐病の調査	日本林学会大会	99
大澤正嗣	1989	The effect of non-basidiomycetes on the progress of larch wood decay caused by butt-rot basidiomycetes	Forest Insect Pests and Tree Diseases in the Northeast Asia, The IUFRO Regional Workshop	1
菊地政泰	1989	森林の保水機能の評価に関する考察	日本林学会関東支部大会	41
柴田 尚	1989	カラマツ林内を利用した菌ハナイグチの増殖	日本林学会関東支部大会	41
大澤正嗣	1989	山梨県に発生したナラタケ病によるカラマツの大量枯損	日本林学会関東支部大会	40
藤本登留ほか	1989	アカマツ小中径材の曲げ強度性能に関する研究	日本林学会関東支部大会	41
清藤城宏	1989	山梨県関東山地におけるヒノキ天然林のアイソザイム変異	日本林学会大会	100
田中 格	1989	山梨県の亜高山帯森林土壌における水源かん養機能 (I)地質・土壌別に見た土壌保水力	日本林学会大会	100
大澤正嗣ほか	1989	山梨県に発生したカラマツ先枯れ病	日本林学会大会	100
清藤城宏	1990	富士山青木ヶ原におけるヒノキ天然林の樹齢とその分布	日本林学会関東支部大会	42
田中 格ほか	1990	亜高山地帯天然生幼齡林分の整理伐後の生長	日本林学会関東支部大会	42
藤本登留ほか	1990	カラマツ小径材の曲げ強度 (II)	日本林学会関東支部大会	42
清藤城宏	1990	ヒノキ採種園におけるアイソザイム変異と自殖率の推定	日本林学会大会	101
田中 格	1990	整理伐実行後の広葉樹の育成状況—立木配置と直径生長および不定枝の発生—	日本林学会大会	101
大澤正嗣	1991	カラマツ根株心腐病菌子実態の発生状況—富士山麓(山梨県)において—	日本林学会関東支部大会	43
田中 格	1991	落葉広葉樹に植栽したヒノキの成長	日本林学会関東支部大会	43

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
名取 潤	1991	木炭粉、木酢液を使った野菜栽培	日本林学会関東支部大会	43
名取 潤	1992	木酢液及びホウ砂・パラフィン含浸処理木材の埋設2年目の劣化状況	日本木材学会大会	42
大澤正嗣	1992	富士山北麓における針葉樹3種の根株心腐病被害の比較	日本林学会関東支部大会	44
田中 格	1992	カラマツ人工林における相対照度の推定—樹幹投影面積を指標として—	日本林学会関東支部大会	44
田中 格	1992	植栽方法をかえて密植したシラカンバの樹高成長	日本林学会関東支部大会	44
名取 潤	1992	木炭粉、木酢液を使った野菜栽培 (II)	日本林学会関東支部大会	44
大澤正嗣	1992	富士山麓におけるカラマツ大径木の根株心腐病による被害実態と環境要因について	日本林学会大会	103
田中 格	1992	カラマツ人工林下の光斑面積と相対照度の経時変化	日本林学会大会	103
柴田 尚	1993	カラマツ林における菌根菌の遷移	日本菌学会関東支部大会	昭和63年度
名取 潤	1993	防腐処理小丸太の野外耐久性	日本木材学会大会	43
本多琢己	1993	木材接着層の破壊靱性と耐水性	日本木材学会大会	43
田中 格	1993	シラカンバ種子採取母樹の成立標高別の生態的特性と実生苗の樹高成長	日本林学会関東支部大会	44
名取 潤	1993	木酢液の苗立枯病菌に対する防除効果	日本林学会関東支部大会	45
田中 格ほか	1993	異なる相対照度下に生育するヒノキの葉の形態と光合成能力	日本林学会大会	104
田中 格ほか	1993	日本産広葉樹45樹種における個葉のガス交換特性	日本林学会大会	104
大澤正嗣ほか	1993	カラマツ根株心腐病の量的被害—腐朽直径、腐朽高及び腐朽体積の関係—	日本林学会大会	104
大澤正嗣ほか	1993	根株心腐病によるカラマツ人工林の根元折れ被害について	日本林学会大会	104
本多琢己	1994	木材接着層の破壊靱性と耐久性	日本木材学会大会	44
田中 格・鈴木昭吾	1994	樹幹うっ閉度による林内相対照度の推定	日本林学会関東支部大会	45
名取 潤	1994	野菜の発芽に対する木酢液の影響	日本林学会関東支部大会	46
田中 格ほか	1994	複層林下木ヒノキの光合成能力と形態	日本林学会大会	105
西川浩己・井出雄二	1994	オノオレカンバ冬芽の培養によるクローン大量増殖	日本林学会大会	105
大澤正嗣ほか	1994	幹心腐病によるカラマツ高齢林の被害	日本林学会大会	105
田中 格ほか	1995	自然状態で測定した広葉樹45種の光合成、蒸散、水蒸気拡散コンダクタンス及び木部圧ポテンシャル	日本生態学会大会	42
名取 潤	1995	シラベの材質に関する研究(I)シラベ林分の樹形調査	日本木材学会大会	45
名取 潤	1995	木酢液を用いた腐葉土の製造試験(1)	日本林学会関東支部大会	47
西川浩己・清藤城宏ほか	1995	熱帯性マメ科植物3種の無菌実生からの増殖	日本林学会関東支部大会	47
大澤正嗣	1995	ヒノキ漏脂病罹病木材内の菌類	日本林学会関東支部大会	47
西川浩己・井出雄二	1995	オノオレカンバ培養苗からのさし木による増殖	日本林学会大会	106
大澤正嗣ほか	1995	腐朽病の診断 (I)根株心腐病による腐朽	日本林学会大会	106
大澤正嗣ほか	1996	Ohlostomatoid fungi associated with <i>Ips cembrae</i>	Asian International Mycological Congress '96	—
大澤正嗣ほか	1996	腐朽病の診断 (II)侵入と進展	樹木医学研究会	1
西川浩己ほか	1996	高山植物タカネピランジの腋芽を包埋して作成した人工種子の生長	植物細胞分子生物学会大会シンポジウム	5
大澤正嗣ほか	1996	カラマツヤツバキクイムシにより分離されたオフィオストマキン科菌類のカラマツ生立木に対する病原性	日本菌学会大会	40
田中 格ほか	1996	異なる光環境に生育する亜高山帯主要樹種当年生葉の形態	日本生態学会大会	43
名取 潤	1996	シラベの材質に関する研究(II)造林したシラベ樹幹内の節の分布	日本木材学会大会	46
本多琢己	1996	パーティクルボードの破壊靱性と力学的特性	日本木材学会大会	46
本多琢己	1996	外部荷重下における接着耐久性試験	日本木材学会大会	46
大澤正嗣ほか	1996	カラマツ幹心腐病の接種試験	日本林学会大会	107
清藤城宏	1996	ヒノキ採種園における遺伝変異	日本林学会大会	107
田中 格	1996	亜高山帯主要樹種のガス交換及び水分生理特性	日本林学会大会	107
田中 格ほか	1996	亜高山帯主要樹種のガス交換及び水分生理特性	日本林学会大会	107
西川浩己・井出雄二	1996	オノオレカンバの挿し木による増殖	日本林学会大会	107

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
大澤正嗣	1997	Progress of stem rot in <i>Larix kaempferi</i>	Regional Workshop of IUFRO, Forest Protection in Northeast Asia	2
西川浩己ほか	1997	高山植物タカネビランジの腋芽を包埋して作成した人工種子の非無菌条件下での発芽	植物細胞分子生物学会大会シンポジウム	15
田中 格	1997	異なる光環境に生育するシラベ・オオシラビソ当年生葉の形態と光合成	日本生態学会大会	44
三枝 茂	1997	カラマツ中径材を利用した高機能性壁材の開発ー着脱式壁画調内壁材(Vari Wall)の開発ー	日本木材加工技術協会年次大会	15
名取 潤	1997	木炭と廃プラスチック顆粒による下水の水質浄化	日本木材学会大会	47
本多琢己	1997	3層パーティクルボードの破壊靱性	日本木材学会大会	47
清藤城宏	1997	RAPDマーカーによるヒノキ採種園構成クローンの識別	日本林学会関東支部大会	49
田中 格ほか	1997	レンゲツツジの地下部の発達と生長	日本林学会関東支部大会	49
大澤正嗣	1997	ミズナラ枝打ち跡からの腐朽の進展	日本林学会大会	108
田中 格ほか	1997	異なる光環境に生育する広葉樹の葉の形態と光合成(予報)	日本林学会大会	108
松谷 順	1997	甲府盆地西側山地における降水の水質について	日本林学会大会	108
田中 格ほか	1998	異なる光環境に生育する広葉樹の葉の形態	日本生態学会大会	45
三枝 茂	1998	タイル調内壁材の開発	日本木材加工技術協会年次大会	16
小澤雅之ほか	1998	ヤング率を変化させたスギ集成材接合部に対する加力試験	日本木材学会大会	48
中島 俊・名取 潤	1998	廃プラスチックを利用した木材の処理について (I)	日本木材学会大会	48
飯田富士雄	1998	タワーヤーダによる効率的な間伐作業方法の検討	日本林学会関東支部大会	50
清藤城宏	1998	スギ精英樹のアレルゲン	日本林学会関東支部大会	50
田中 格	1998	混交したヒノキ及びクリの生育比較	日本林学会関東支部大会	50
中島 俊・名取 潤	1998	造膜型塗膜の応力割れと熱による塗膜の柔軟性の喪失について	日本林学会関東支部大会	50
名取 潤・中島 俊	1998	竹垣の防カビ処理	日本林学会関東支部大会	50
田中 格	1998	異なる光環境に生育する落葉広葉樹の光合成特性	日本林学会大会	109
大澤正嗣ほか	1999	関東・中部地方から採集したSchizopora属菌の形態と交配グループの検討	日本菌学会大会	43
中島 俊ほか	1999	廃プラスチックを利用した木材の処理について (I)	日本木材学会大会	49
名取 潤	1999	木材の屋外耐久性予測に関する研究ー土壌を用いた促進効果ー	日本木材学会大会	49
飯田富士雄	1999	タワーヤーダによる効率的な間伐作業方法の検討 (II) 伐区形状と作業性	日本林学会関東支部大会	51
田中 格	1999	異なる光環境に更新した亜高山帯主要樹種3種の稚樹のサイズと樹冠の形状	日本林学会関東支部大会	51
大澤正嗣ほか	1999	奥秩父縞枯れ林における枯損推移と菌類との関係に関する予備調査	日本林学会大会	110
田中 格	1999	落葉広葉樹8樹種のガス交換特性	日本林学会大会	110
田中 格ほか	1999	落葉広葉樹8樹種の水分特性	日本林学会大会	110
長池卓男ほか	1999	ブナ林域の二次林における景観構造の変化が植物種多様性に及ぼす影響ー林冠層のブナの出現に関連づけてー	日本林学会大会	110
長池卓男ほか	1999	落葉広葉樹が混交する多雪地のスギ人工林における林床植物相	日本林学会大会	110
西川浩己ほか	1999	Acacia crassicarpaの無菌実生からの大量増殖	日本林学会大会	110
松谷 順	1999	山梨県における森林環境モニタリングについて	日本林学会大会	110
長池卓男	2000	Plant functional types in deciduous conifer (<i>Larix kaempferi</i>) plantations and broad-leaved (<i>Quercus crispula</i>) secondary forests in central Japan	International conference "Forest Ecosystem Restoration"	
大澤正嗣	2000	Fungi and bark beetles associated with wave regeneration in <i>Abies</i> forests in Japan	Regional Workshop of IUFRO	3
大澤正嗣ほか	2000	Morphological differences and intercompatibility groups within <i>Schizopora</i> which distributes in central Japan	Regional Workshop of IUFRO	3

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
長池卓男ほか	2000	Plant species responses along a forest management gradient of the <i>Fagus crenata</i> forest region in central Japan	Symposium of the international association for vegetation science	43
長池卓男	2000	亜高山帯針葉樹林における道路開設30年後の林分構造と更新	日本生態学会大会	47
小澤雅之	2000	実物大ラミナにおける強度分布	日本木材学会大会	50
小澤雅之	2000	木材繊維と木粉を用いたセメントボードの性能の比較	日本木材学会大会	50
小澤雅之	2000	木粉を用いたセメントボードにおける防火性	日本木材学会大会	50
名取 潤・中島 俊	2000	廃プラスチックを利用した木材の処理について (II) 加熱処理による注入性の改善	日本木材学会大会	50
本多琢己	2000	木材/ガラスクロス接着接合における破壊靱性	日本木材学会大会	50
本多琢己	2000	LVLの靱性の改良	日本木材学会大会	50
柴田 尚ほか	2000	土壌からキノコへのセシウム移行における土壌微生物の影響	日本薬学会大会	120
大澤正嗣	2000	カナダ産キクイムシ2種(<i>Dendroctonus rufipennis</i> 及び <i>Polygraphus rufipennis</i>)から分離される菌類とその病原性	日本林学会大会	111
大澤正嗣ほか	2000	シラベ縞枯れ林におけるOphistomatoidと菌類相と伝搬するキクイムシ類の地域間比較	日本林学会大会	111
田中 格	2000	異なる光環境で生育した亜高山帯主要樹種当年生葉の形態及び光合成能力	日本林学会大会	111
長池卓男	2000	落葉広葉樹二次林とカラマツ人工林の植物種多様性の比較	日本林学会大会	111
西川浩己	2000	オノオレカンバ培養苗の順化方法の検討	日本林学会大会	111
松谷 順	2000	秩父山地西部地域における河川水の水質	日本林学会大会	111
大澤正嗣	2001	中部山岳地帯におけるカラマツ人工林、ミズナラ二次林のカミキリムシ相、コメツキムシ相の比較(予報)	日本生態学会大会	48
田中 格	2001	異なる光環境に着生する落葉広葉樹個葉の出葉角、形態及び光合成特性	日本生態学会大会	48
長池卓男・梶原敦子	2001	カラマツ人工林の混交林化に伴う鳥散布種子密度の変化	日本生態学会大会	48
本多琢己	2001	パーティクルボードの接着耐久性と破壊靱性	日本接着学会年次大会	39
名取 潤・中島 俊	2001	廃プラスチックを利用した木材の処理について (IV) プラスチックを含浸した木材の表面硬度	日本木材学会大会	51
本多琢己	2001	ガラスクロス強化LVLの靱性に及ぼすクロスの複合位置・角度の影響	日本木材学会大会	51
大澤正嗣	2001	山梨県における森林生態系モニタリング事業調査事業中間報告	日本林学会大会	112
長池卓男・林 敦子	2001	カラマツ高齢人工林における植物種多様性	日本林学会大会	112
林 敦子・長池卓男	2001	カラマツ人工林における間伐後の植生回復過程	日本林学会大会	112
大澤正嗣	2002	Comparison of beetle species biodiversity in various forest types in the central mountains region of Japan	International congress of ecology	8
大澤正嗣	2002	日本に分布するPoroid <i>Hyphodonita</i> 属菌	日本菌学会	46
大澤正嗣	2002	中部山岳地帯におけるカラマツ人工林と広葉樹天然林の甲虫相	日本生態学会大会	49
長池卓男・林 敦子ほか	2002	林齢の異なるカラマツ人工林における植物種多様性の比較	日本生態学会大会	49
本多琢己	2002	ガラスクロス強化LVLの力学的性質に及ぼすクロスの複合位置・角度の影響	日本木材学会大会	52
長池卓男ほか	2002	ブナ林における異なった施肥が天然更新に及ぼす影響	日本林学会大会	113
西川浩己・清藤城宏	2002	ヤマナラシ培養苗からのダイレクトルーティングによる増殖	日本林学会大会	113
松谷 順	2002	カラマツ林における林内雨・土壌水の水質について	日本林学会大会	113
長池卓男・林 敦子	2003	Plant species diversity in long-rotation larch (<i>Larix kaempferi</i>) plantations in central Japan	International conference on forest vegetation management	4
長池卓男	2003	Forest management effects on plant species diversity in a <i>Fagus crenata</i> forest landscape in central Japan, with special reference to land use change	Symposium for perspectives of the biodiversity research in the western pacific and Asia in the 21th century	-

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
長池卓男	2003	Effects of plant species diversity in <i>Larix kaempferi</i> plantations in central Japan -Results from Yamanashi Forest Ecosystem Monitoring Project-	Workshop for international collaborative study on indicators of sustainable forest management	-
大澤正嗣	2003	カミキリムシ科とコメツキムシ科の様々な森林タイプにおける種多様性の比較	日本生態学会大会	50
田中 格	2003	異なる強度で被陰された落葉広葉樹個葉の解剖学的構造と光合成速度	日本生態学会大会	50
長池卓男	2003	植物種多様性の評価から見た生態的森林管理	日本生態学会大会	50
本多琢己	2003	3層パーティクルボードの接着耐久性と破壊靱性	日本接着学会年次大会	41
本多琢己	2003	フェノール強化LVLの破壊靱性と耐水性	日本木材学会大会	53
田中 格	2003	異なる強度で被陰された落葉広葉樹苗木の成長および光合成速度	日本林学会大会	114
長池卓男・林 敦子・久保満佐子ほか	2003	林齢の異なるカラマツ人工林における高木性樹種の更新過程	日本林学会大会	114
西川浩己ほか	2003	スギ精英樹5クローンアンチジベレリンにおける反応性について	日本林学会大会	114
長池卓男	2004	Contribution of monitoring research to forest certification and ecologically sustainable forest management in the Yamanashi prefectural forest, central Japan	International workshop "Balancing ecosystem values - Innovative experiments for sustainable forestry-"	-
久保満佐子ほか	2004	半自然草原における人為圧の植生への影響と蝶(成虫)の分布との関係	植生学会大会	9
大澤正嗣	2004	ハムシ科種多様性の森林タイプ及び森林施業による違い	日本生態学会大会	51
田中 格	2004	光前歴が落葉広葉樹の解剖学的構造と光-光合成特性に与える影響	日本生態学会大会	51
長池卓男ほか	2004	富士山亜高山帯針葉樹林における道路開設30年後の林分構造と動態	日本生態学会大会	51
本多琢己	2004	竹炭混合API樹脂の接着性と調湿性	日本接着学会年次大会	42
小澤雅之・齋藤 寛	2004	山梨県地域における木質バイオマスエネルギーの普及活動について	日本木材学会大会	54
本多琢己	2004	高温熱処理によるスギラミナの力学的性質の変化	日本木材学会大会	54
長池卓男・林 敦子・久保満佐子	2004	林齢の異なるカラマツ人工林における林分構造と種組成	日本林学会関東支部大会	56
田中 格	2004	異なる被陰強度で生育した落葉広葉樹の伸長成長および着葉量の季節変化	日本林学会大会	115
長池卓男ほか	2004	カラマツ壮齢人工林における林内放牧が下層植生に及ぼす影響	日本林学会大会	115
西川浩己・清藤城宏ほか	2004	山梨県および埼玉県秩父地方のオノオレカンパ集団のSSRマーカーによる遺伝的多様性解析	日本林学会大会	115
松谷 順ほか	2004	山地小流域における地下水の流動・流出と水温の関係	日本林学会大会	115
長池卓男	2005	Ecosystem monitoring project of Yamanashi prefecture	International workshop "Researches of criteria and indicators based on Montreal process"	-
長池卓男・林 敦子・久保満佐子ほか	2005	Changes of plant species diversity in <i>Larix kaempferi</i> plantations and abandoned coppice forests for last 5 years in central Japan	IUFRO World Congress	22
小澤雅之ほか	2005	Energy value of forest residues deriving from logging operation in Yamanashi Prefecture, Japan	Nordic Bioenergy Conference	-
大澤正嗣	2005	カラウソタケのソメイヨシノへの接種試験	樹木医学会大会	10
柴田 尚ほか	2005	Hypogenous ascomycetes <i>Tuber</i> spp. in eastern Japan	日米合同菌学会大会	2005年度
田中 格ほか	2005	落葉広葉樹5種における被陰に対する光-光合成特性の順化過程	日本生態学会大会	52

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
小澤雅之・齋藤 寛ほか	2005	山梨県地域における林地残材の状況について	日本木材学会大会	55
本多琢己	2005	熱板圧縮処理によるスギラミナの破壊靱性の改良	日本木材学会大会	55
大澤正嗣	2005	枯死材・腐朽材の量と材食性甲虫の種多様性	日本森林学会大会	116
長池卓男・林 敦子・久保満佐子ほか	2005	カラマツ人工林とミズナラ二次林における植物種多様性の5年間の変化	日本森林学会大会	116
西川浩己・清藤城宏ほか	2005	マイクロサテライトマーカーを用いたオノオレカンバの遺伝的多様性と集団間分化	日本森林学会大会	116
松谷 順ほか	2005	山梨県におけるFSC森林管理認証取得と環境影響評価について	日本森林学会大会	116
大澤正嗣	2006	Diversity of beetles on isolated old broad-leaved trees in larch plantations	East Asian Federation of Ecological Society Congress	2
長池卓男ほか	2006	Changes in stand structure and regeneration over a ten-year period in a selectively logged <i>Abies-Picea</i> forest in northern Japan	IUFRO conference "Natural disturbance-based silviculture, managing for complexity"	-
大澤正嗣	2006	孤立したミズナラ巨木の昆虫相	樹木医学会大会	11
小澤雅之ほか	2006	伐採後に発生した林地残材の実測	日本エネルギー学会大会	15
柴田 尚ほか	2006	霊芝の子実体成長過程におけるガノデリン酸含有量の変化	日本きのこ学会大会	10
柴田 尚	2006	富士山亜高山帯針葉樹林の外生菌根菌に見られる種多様性とその生態	日本菌学会関東支部年次大会	平成18年度
長池卓男ほか	2006	ブナ・ウラジロモミ林の種組成と構造に及ぼす人為攪乱と地形の影響	日本生態学会大会	53
三枝 茂	2006	木製ワインボトルラックの製作	日本デザイン学会研究発表会	53
三枝 茂	2006	いろいろな模様を創出できる木製内壁材の製作と9年後の製品性能	日本デザイン学会研究発表会	53
小澤雅之ほか	2006	林地残材モデルにおける含水率分布	日本木材学会大会	56
本多琢己	2006	フェノール樹脂含浸強化LVLの曲げ強度	日本木材学会大会	56
田中 格	2006	異なる光強度で生育した落葉広葉樹の光合成特性に与える被陰解除の影響	日本森林学会大会	117
長池卓男・林 敦子・久保満佐子ほか	2006	カラマツ人工林の植物種多様性を評価するために必要な調査コードラート数	日本森林学会大会	117
西川浩己・清藤城宏ほか	2006	オノオレカンバの分布域における遺伝的多様性	日本森林学会大会	117
林 敦子・長池卓男	2006	カラマツ人工林における間伐後の木本植生の動態	日本森林学会大会	117
小澤雅之ほか	2007	Status of the forest residue in the forests and lumber yards of Yamanashi Prefecture, Japan	Bioenergy 2007	-
柴田 尚	2007	富士山亜高山帯針葉樹林における数種外生菌根菌の子実体バイオマスの減少	日本菌学会大会	51
戸沢一宏ほか	2007	シヤクヤクの栽培法とベオニフロリン含有量の検討	日本森林学会関東支部大会	59
戸沢一宏ほか	2007	薬用人参(<i>Panax ginseng</i>)栽培の省力化の検討	日本森林学会関東支部大会	59
大澤正嗣	2007	孤立したミズナラ巨木に飛来する昆虫相—周辺カラマツ林との比較—	日本生態学会大会	54
久保満佐子・林 敦子ほか	2007	山梨県上ノ原地区の半自然草原における人為的管理が植生とチョウ類群集に与える影響	日本生態学会大会	54
田中 格	2007	異なる光強度に馴化した落葉広葉樹の解剖学的構造および光—光合成特性	日本生態学会大会	54
長池卓男ほか	2007	カラマツ高齢人工林を構成する高木種個体群の構造と動態	日本生態学会大会	54
三枝 茂	2007	軟質材の曲線加工における目ぼれ回避方法	日本デザイン学会研究発表大会	54
三枝 茂	2007	木製ワインボトルラックの製作(2)	日本デザイン学会研究発表大会	54
柴田 尚ほか	2007	腐朽木からの白色腐朽菌及び放線菌の分離とリグノセルロース分解活性	日本放線菌学会大会	22
小澤雅之ほか	2007	小規模ペレタイザーの開発に向けた高温圧縮下における未処理カラマツ木粉の流動化現象の把握	日本木材学会大会	57
名取 潤	2007	簡易劣化診断器具を使った杭、支柱等の木質外構材の劣化診断	日本木材学会大会	57

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
本多琢己	2007	フェノール樹脂含浸強化LVLの破壊じん性	日本木材学会大会	57
田中 格	2007	異なる解除率で被陰解除された落葉広葉樹の光合成特性	日本森林学会大会	118
長池卓男ほか	2007	小川群落保護林と周辺のランドスケープを構成する草本種多様性	日本森林学会大会	118
長池卓男	2008	Effects of elevation on tree species composition in <i>Larix kaempferi</i> plantations and natural forests in central Japan	IUFRO Workshop "Uneven-aged silviculture"	6
小澤雅之ほか	2008	林地残材の輸送およびチップ化作業の実地測量	日本エネルギー学会大会	17
田中 格	2008	開葉前に被陰解除された落葉広葉樹の光応答性	日本生態学会大会	55
長池卓男	2008	カラマツ人工林に天然更新する高木性樹種組成を決定する要因	日本生態学会大会	55
大澤正嗣	2008	甲虫多様性で役立つ指標種	日本生態学会大会	55
三枝 茂	2008	多目的に利用できる木製商品ケース	日本デザイン学会研究発表大会	55
三枝 茂・鈴木泰仁・上野梅男	2008	高品質ヒノキ斜切り円盤の製造技術の開発	日本デザイン学会研究発表大会	55
三枝 茂	2008	NCルーターによる軟質材の曲線加工における目ばれ回避豊富	日本木材加工技術協会年次大会	26
三枝 茂・鈴木泰仁・上野梅男	2008	高品質ヒノキ斜切り円盤の製造方法	日本木材加工技術協会年次大会	26
本多琢己	2008	促進劣化処理によるフェノール樹脂含浸強化LVLの破壊じん性の変化	日本木材学会大会	58
田中 格	2008	伐採率および伐採方法が異なる複層林に樹下植栽された下木の生育	日本森林学会大会	119
西川浩己・神戸陽一・入月浩之	2008	花粉の少ないスギの種苗生産性について	日本森林学会大会	119
大澤正嗣	2008	山梨県におけるカツラマルカイガラムシによる広葉樹の被害	日本森林学会大会	119
大澤正嗣	2009	ヤノナミガタチビタムシによるケヤキの被害とその防除	樹木医学会大会	14
柴田 尚	2009	富士山のきのこ	日本きのこ学会セミナー	平成21年度セミナー
田中 格	2009	異なる解除率で被陰解除された落葉広葉樹9種における光合成機能の応答	日本生態学会大会	56
長池卓男	2009	過去の失敗分析に基づいた森林施業研究へ向けて	日本生態学会大会	56
長池卓男ほか	2009	道路沿いの亜高山帯針葉樹林におけるニホンジカの剥皮と競争が更新に及ぼす影響	日本生態学会大会	56
大澤正嗣	2009	ヤノナミガタチビタムシの生態とそれを利用した防除	日本生態学会大会	56
三枝 茂・鈴木泰仁・上野梅男	2009	スギ柱材を利用した土木・建築用製品の部材開発	日本デザイン学会研究発表大会	56
三枝 茂	2009	H鋼と単管を利用した安価な家具の試験装置の開発	日本木材加工技術協会年次大会	27
三枝 茂・鈴木泰仁・上野梅男	2009	簡易な加工と簡易な接合による土木・建築製品の製作	日本木材加工技術協会年次大会	27
三枝 茂・鈴木泰仁・上野梅男	2009	山梨県産スギおよびヒノキ柱材の強度特性	日本木材加工技術協会年次大会	27
小澤雅之ほか	2009	山梨県地域におけるボイラ施設での林地残材チップ化事例	日本木材学会大会	59
本多琢己	2009	ポリウレタン樹脂による木材の圧縮変形固定	日本木材学会大会	59
田中 格	2009	異なる被陰状態から被陰解除された落葉広葉樹の光合成特性	日本森林学会大会	120
長池卓男ほか	2009	間伐後の年数の異なるカラマツ人工林における高木生稚樹の6年間の動態	日本森林学会大会	120
西川浩己・田中涼子・藤浪 実ほか	2009	糖誘導体脂肪酸エステルによるスギの雄花着花量の抑制	日本森林学会大会	120
大澤正嗣	2009	カツラマルカイガラムシの分散方法と被害の拡大	日本森林学会大会	120
長池卓男ほか	2010	Effects of line cutting promoting uneven-aged forests on diameter growth in an even-aged mixed plantation, Mt. Fuji, central Japan	IUFRO Workshop "Uneven-aged silviculture"	—
大澤正嗣	2010	Beetle families as indicators of Coleopteran diversity in forests: a study using Malaise traps in the central mountainous region of Japan	IUFRO World Congress	23
飯島勇人	2010	出猟カレンダーと状態空間モデルによる山梨県のニホンジカ個体群の動態の解析	統計関連学会連合大会	2010年度
大澤正嗣ほか	2010	山梨県における天然林とカラマツ人工林の蛾類多様性の違い	日本応用動物昆虫学会大会	54

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
柴田 尚ほか	2010	山梨県小淵沢で発生した外生菌根菌セイヨウシヨウロタケ(<i>Tuber indicum</i>)について	日本菌学会大会	54
田中 格	2010	人工造林された落葉広葉樹7種の成長	日本森林学会関東支部大会	62
西川浩己ほか	2010	糖脂脂肪酸誘導体によるスギの雄花着花抑制における散布薬剤の飛散について	日本森林学会関東支部大会	62
大澤正嗣	2010	林の中に残された老齢巨木の甲虫多様性を保全する役割	日本森林学会関東支部大会シンポジウム	62
長池卓男	2010	これからの人工林の管理—木材を生産することと生き物のことを考えること—	日本森林学会関東支部大会シンポジウム	62
長池卓男	2010	森林施業と生物多様性—技術と社会的システム—	日本森林学会大会シンポジウム	121
飯島勇人・小林慶子・長池卓男	2010	牧場からの距離がニホンジカの樹木の樹皮剥ぎ発生に与える影響	日本生態学会大会	57
田中 格	2010	帯状伐採地に植栽された落葉広葉樹とヒノキの成長	日本生態学会大会	57
長池卓男・飯島勇人・小林慶子ほか	2010	ブナ・ウラジロモミ林の動態に及ぼすニホンジカ剥皮の影響	日本生態学会大会	57
大澤正嗣	2010	長伐期施業が甲虫多様性に与える影響	日本生態学会大会	57
三枝 茂・鈴木泰仁	2010	木造からくり掲示板	日本デザイン学会研究発表大会	57
三枝 茂・鈴木泰仁	2010	子供も楽しめるからくり機能の着いた木造掲示板の製作	日本木材加工技術協会年次大会	28
小澤雅之ほか	2010	間伐施業に伴い発生した林地未利用材の搬出および輸送	日本木材学会大会	60
大澤正嗣ほか	2010	カツラマルカイガラムシによる被害状況と寄生バチの発育及び羽化消長	日本森林学会大会	121
田中 格	2010	異なる光線強で被陰された落葉広葉樹苗木の肥大成長および光合成特性	日本森林学会大会	121
長池卓男ほか	2010	ヒノキ人工林のまきがらし間伐における残存木成長の空間パターン	日本森林学会大会	121
西川浩己ほか	2010	ブナ採種林と採種林産苗木集団の遺伝的多様性の評価	日本森林学会大会	121
大澤正嗣ほか	2010	松くい虫被害は富士山をどこまで上がる?	日本森林学会大会	121
長池卓男ほか	2011	Spatial dependency of growth pattern of planted broad-leaved trees at a line cutting even-aged mixed plantation. Mt. Fuji, central Japan	IUFRO Workshop "Restoring forest"	—
田中 格	2011	帯状伐採地および強度間伐地の林床に樹下植栽されたカツラとクリの成長	関東森林学会大会	1
長池卓男・飯島勇人	2011	南アルプス北岳亜高山帯におけるニホンジカ出現の季節変化	関東森林学会大会	1
大澤正嗣	2011	ケヤキの早期落葉は潜葉性害虫ヤノナミガタチピタマムシ成虫発生に影響を与えるか	日本森林学会大会	122
田中 格	2011	列状伐採および強度間伐された林床に植栽された落葉広葉樹の生長	日本森林学会大会	122
長池卓男ほか	2011	亜高山帯針葉樹林におけるニホンジカによる剥皮の林縁からの傾度	日本森林学会大会	122
西川浩己ほか	2011	DNAマーカーによるヒノキ採種圃内の花粉症対策品種の系統管理	日本森林学会大会	122
飯島勇人・長池卓男ほか	2011	複数の密度指標を用いた状態空間モデルによるニホンジカ個体群密度の推定	日本生態学会大会	58
大澤正嗣	2011	甲虫多様性に影響を与える環境要因—カラマツ人工林での調査—	日本生態学会大会	58
田中 格	2011	強度間伐したカラマツ人工林に更新した落葉広葉樹3種の成長および光合成特性	日本生態学会大会	58
長池卓男	2011	南アルプス北岳亜高山帯の植生に対するニホンジカの影響	日本生態学会大会	58
飯島勇人	2011	本州のニホンジカ個体群動態に影響する要因の評価	日本哺乳類学会大会	2011年度
三枝 茂	2011	甲州ワインと富士川材のコラボレーション 木製ワイン関連グッズの製作	日本木材加工技術協会年次大会	29
小澤雅之ほか	2011	山梨県地域における林地未利用材搬出・輸送の成立条件	日本木材学会大会	61
本多琢己	2011	ポリウレタン樹脂で変形固定した圧縮木材の接着性能	日本木材学会大会	61
大澤正嗣ほか	2012	Responses of several beetle families to long-rotation in larch plantations	East Asian Federation of Ecological Society Congress	5
田中 格	2012	強度被陰された落葉広葉樹7種の飽和光合成速度と成長	関東森林学会大会	2
長池卓男	2012	カラマツ人工林における植物群集の10年間の推移	関東森林学会大会	2
大澤正嗣	2012	ケヤキの早期落葉を利用したヤノナミガタチピタマムシ被害軽減対策	樹木医学会大会	17

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
柴田 尚	2012	富士山の野生きのこに含まれる放射性セシウムの濃度－2011年3月10日以前を中心に－	日本菌学会関東支部大会シンポジウム	27
大澤正嗣	2012	富士山麓各標高における松くい虫被害発生の可能性	日本森林学会大会	123
田中 格	2012	落葉広葉樹苗木における成長および飽和光合成速度の被陰応答性	日本森林学会大会	123
長池卓男	2012	人工林に期待される生物多様性とは何か？－植物から見た視点－	日本森林学会大会	123
西川浩己・藤浪 実	2012	幼齢の花粉症対策ヒノキ品種採種木からの種子生産	日本森林学会大会	123
飯島勇人	2012	コケ類との生物間相互作用から見た倒木上の北方針葉樹種の更新動態	日本生態学会大会	59
長池卓男	2012	混交植栽人工林は生態系機能を高めるか？	日本生態学会大会	59
長池卓男	2012	赤谷の森の植生の現状評価と森林管理への反映	日本生態学会大会	59
三枝 茂	2012	乾燥後のスギ心持ち無背割り柱材の外観－高温低湿処理と天然乾燥の組み合わせによる乾燥－	日本デザイン学会研究発表大会	59
飯島勇人	2012	関東山地ニホンジカ個体群の個体数推定の試行	日本哺乳類学会大会	2012年度
三枝 茂・鈴木泰仁	2012	異なる径級の丸太から製材したスギ心持ち柱材の高温乾燥後の材面割れの状況	日本木材加工技術協会年次大会	30
本多琢己	2012	屋外暴露によるフェノール樹脂含浸強化LVLの破壊じん性の変化	日本木材学会大会	62
大津千晶ほか	2012	山梨県で過去5年間に施工された緑化施工地はどのような状態にあるか？	緑化工学会・景観生態学会・応用生態工学会3学会合同大会	—
長池卓男	2013	Vegetation homogenization by deer browsing in subalpine vegetation, central Japan]	International congress of ecology	11
長池卓男・飯島勇人	2013	Current status for effects of sika deer (<i>Cervus nippon</i>) on natural vegetation and forests in Minami-Alps National Park, central Japan	アジア国立公園会議	1
長池卓男	2013	カラマツ天然林におけるニホンジカの剥皮が樹木の動態に及ぼす影響	関東森林学会大会	3
大澤正嗣	2013	ケヤキの害虫ヤノナミガタチピタムシの産卵とその後の成長	樹木医学会大会	18
飯島勇人・長池卓男	2013	広葉樹幼齢造林地における植栽木の生残にニホンジカが与える影響	日本森林学会大会	124
大澤正嗣	2013	トウヒツブリヒメハマキ被害発生から11年間の生息数の変動と大発生の兆し	日本森林学会大会	124
大地純平	2013	オブジェクトベース分類における要間伐林の抽出	日本森林学会大会	124
田中 格	2013	伐採方法の異なる林床に植栽された落葉広葉樹における個葉の比葉面積、SPAD値および窒素含有量	日本森林学会大会	124
長池卓男	2013	持続可能な生態的森林管理における森林認証の役割	日本森林学会大会	124
飯島勇人・長池卓男	2013	亜高山帯針葉樹林におけるニホンジカによる剥皮発生に影響する要因	日本生態学会大会	60
大澤正嗣	2013	森林環境が大型ハナムグリ類に与える影響	日本生態学会大会	60
田中 格	2013	強度被陰された落葉広葉樹の苗木におけるTVR率、展開葉数および葉の解剖学的構造	日本生態学会大会	60
長池卓男・飯島勇人	2013	亜高山帯植生におけるニホンジカ摂食からの保全優先度の検討	日本生態学会大会	60
小澤雅之ほか	2013	素材生産現場由来の未利用材によるバイオエネルギーの供給量	日本木材学会大会	63
本多琢己	2013	同一等級構成集成材の割裂接着強さ	日本木材学会大会	63
田中 格	2014	携帯式測定器の窒素測定値と分析により実測された窒素含有量の相関	関東森林学会大会	3
長池卓男	2014	「林業」と「生態的な森林管理」でのスケールメリットを考える	森林施業研究会シンポジウム	18
飯島勇人	2014	広葉樹造林地におけるシカによる剥皮状況の違いにシカ密度・嗜好性・樹木のサイズが与える影響	日本森林学会大会	125
大地純平	2014	山梨県全域を対象とした要間伐林分の抽出	日本森林学会大会	125
田中 格	2014	群状伐採地に植栽された落葉広葉樹苗木の生長	日本森林学会大会	125
長池卓男ほか	2014	富士山北麓のシラベ人工林列状伐採地に植栽された落葉広葉樹5種の生残	日本森林学会大会	125
西川浩己・馬目恭行	2014	コンテナ栽培したヒノキ少花粉品種採種木からの種子生産	日本森林学会大会	125
大澤正嗣	2014	カラマツ長伐期における根株心腐病の被害軽減	日本森林学会大会	125
飯島勇人	2014	生態学における状態空間モデルの利用	日本生態学会大会	61
大津千晶・飯島勇人ほか	2014	関東・中部地方の半自然草原におけるExtinction debtの支払いプロセス	日本生態学会大会	61

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
田中 格	2014	異なる方法で伐採された林床に植栽した落葉広葉樹の個葉における光応答性	日本生態学会大会	61
長池卓男	2014	登山者はニホンジカの影響をどのように視ているか?	日本生態学会大会	61
大澤正嗣	2014	好樹液性昆虫のエタノールによる誘因効果	日本生態学会大会	61
本多琢己	2014	API樹脂の接着性に及ぼす接着条件の影響	日本木材学会大会	64
飯島勇人	2014	シカによる植生への影響評価手法の比較	日本霊長類学会・日本哺乳類学会合同大会	2013年度

【林試情報・林技情報・森研情報】

石原義久・秋山嘉蔵	1975	カラマツ間伐材を用いた集成材の試作	林試情報	1
遠藤 昭・小林福治	1975	山梨県における亜高山帯の人工更新	林試情報	1
望月長雄	1975	緑化木のさし木	林試情報	1
渡辺利一・名取 潤	1975	アンケート調査による小径材、低質材の利用と木質廃材の処理状況	林試情報	1
花房 尚	1978	タネの発芽促進における低湿湿層処理の方法とその効果	林試情報	2
依田和幸	1978	亜高山帯の荒廃地における緑化復元手法 (II) 巢植による郷土種の導入	林試情報	2
依田和幸	1978	亜高山帯の荒廃地における緑化復元手法 (III) 植物の生活型から見た緑化の現況	林試情報	2
秋山喜蔵	1980	共同目立加工所における帯のご加工の実態	林試情報	3
清藤城宏	1980	カラマツシラベの二段林施業	林試情報	3
秋山喜蔵	1981	カラマツ角材の矯正挽き	林試情報	5
清藤城宏	1981	シラベの球果とタネ	林試情報	5
名取 潤	1981	異樹種材の集成加工(1)広葉樹異樹種材を集成化した場合の接着性能	林試情報	4
萩野 務	1981	秩父山地における22年生ストロブマツの生育	林試情報	5
花房 尚	1981	カラマツヒノキ二段林の実態とその間伐方法について	林試情報	4
大橋邦夫	1982	アンケート調査にみる林家の林業経営実態と意向	林試情報	6
長田十九三	1982	カラマツの育種と育苗	林試情報	7
長田十九三ほか	1982	富士山雪崩跡地の更新 (I)	林試情報	6
清藤城宏	1982	スギ採種園において受粉条件を変えて作ったタネの質	林試情報	6
名取 潤	1982	間伐小径材の高度利用と生材接着	林試情報	6
萩野 務ほか	1982	ねじれの少ないカラマツ精英樹クローンの選抜	林試情報	7
渡辺利一	1982	カラマツ丸太の天然乾燥	林試情報	6
渡辺利一ほか	1982	カラマツ心去り角材の品質	林試情報	7
長田十九三ほか	1983	林業用苗畑の土作り	林試情報	9
柴田 尚	1983	菌根および菌根菌の性質とその役割ー森林保護の側面からー	林試情報	8
名取 潤ほか	1983	広葉樹木口円盤の乾燥	林試情報	8
馬場勝馬ほか	1983	山梨県におけるマツノマダラカミキリの生態調査	林試情報	8
渡辺利一ほか	1983	県産広葉樹小径木の生産・利用の実態に関する研究	林試情報	9
柴田 尚	1984	富士山北麓のきのこ	林試情報	10
柴田 尚	1984	毒きのこの見分け方	林試情報	10
名取 潤	1984	シメジ類の人工栽培	林試情報	10
渡瀬 彰ほか	1984	未利用樹種によるシイタケ栽培試験	林試情報	10
長田十九三	1985	広葉樹の育成(1)ミズナラ、ケヤキ、サワグルミ種子の特性	林技情報	12
柴田 尚	1985	カラマツ間伐材を利用した食用きのこの栽培	林技情報	11
清藤城宏	1985	間伐・収穫予測のためのパソコン利用のこころみ	林技情報	12
清藤城宏ほか	1985	亜高山地帯における漸伐施業地の天然更新 (II)	林技情報	11
田中 格	1985	荒川上流の花崗岩山地における水源かん養機能	林技情報	11
名取 潤ほか	1985	小径材等の集成化技術の確立 (I)	林技情報	11
渡辺利一ほか	1985	県産広葉樹小径材の材質及び乾燥特性	林技情報	12
長田十九三	1986	広葉樹の育成(2)ミズナラ、ケヤキ、サワグルミの育苗	林技情報	13
田中 格ほか	1986	荒川上流における広葉樹林の林分構造と地形	林技情報	13
長田十九三	1987	苗畑除草剤(林業)の施用効果	林技情報	14
柴田 尚ほか	1987	MEP(スミチオン)乳剤のガンノズルスプレーによる空中散布が環境に及ぼす影響	林技情報	14
藤本登留ほか	1987	県産材の地域別材質特性(1)富士川林業地域のヒノキ柱材の品質	林技情報	13
渡辺利一ほか	1987	松くい虫被害材の乾燥	林技情報	14
菊地政泰ほか	1989	道志水源林における保水機能の評価に関する一考察	林技情報	16

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
清藤城宏	1989	ヒノキ採種園における種子生産技術	林技情報	15
田中 格	1989	スギ、ヒノキ林業地帯への複層林導入技術—経営を考慮した複層林造成技術の検討—	林技情報	15
名取 潤ほか	1989	山梨県における建築用木材の乾燥に関する実態調査	林技情報	15
名取 潤ほか	1989	木材炭化成分の多用途利用に関する研究 (I) マツクイムシ被害材の製炭試験	林技情報	16
名取 潤ほか	1989	木材炭化成分の多用途利用に関する研究 (II) 木酢液の消臭効果に関する研究	林技情報	16
藤本登留ほか	1989	ヒノキ心持ち柱材の高周波減圧乾燥	林技情報	16
菊地政泰	1990	山腹緑化基礎工の施工密度と植生被覆に関する一考察	林技情報	18
柴田 尚	1990	ハタケシメジの栽培	林技情報	18
大澤正嗣	1990	山梨県におけるカラマツ先枯病の被害と今後の対策について	林技情報	18
田中 格	1990	パソコンを利用したカラマツ—ヒノキ複層林の造成管理方法の予測	林技情報	17
名取 潤ほか	1990	松くい虫によるクロマツの被害—樹脂流出異常と年越し枯れ—	林技情報	17
名取 潤ほか	1990	防災性能のある複合壁材の開発 (I) 難燃剤の注入方法の検討	林技情報	17
藤本登留ほか	1990	カラマツ小中径材の曲げ強度性能に関する研究	林技情報	18
安藤稜威雄	1991	オカワサビの栽培技術の確立	林技情報	19
清藤城宏・相沢武夫	1991	山梨におけるクリ品種の適応試験	林技情報	19
大澤正嗣	1991	山梨県におけるヒノキ漏脂病の被害実態と環境要因について	林技情報	19
名取 潤	1991	ブドウ支柱の耐久性(1)	林技情報	19
大澤正嗣	1992	松くい虫被害木からマツノザイセンチュウの検出—被害材片の採取方法—	林技情報	20
名取 潤	1992	木材炭化成分の高度利用に関する研究(1)木酢液の培地添加濃度が病原性微生物の増殖に及ぼす影響	林技情報	20
名取 潤	1992	木酢液及びホウ砂・パラフィン含浸処理木材の耐久性	林技情報	20
本多琢己	1992	クラックを持つカラマツ材の曲げ特性	林技情報	20
本多琢己・三枝 茂	1992	ヒノキ柱材の太陽熱乾燥	林技情報	20
三枝 茂	1994	カラマツ単板のアセチル処理方法	林技情報	21
名取 潤	1994	防腐処理小丸太の野外耐久性	林技情報	21
西川浩己	1994	高山植物タカネビランジの種子の発芽特性および組織培養による増殖	林技情報	21
本多琢己	1994	数種の木材及び木質材料の吸湿性	林技情報	21
名取 潤	1995	木材炭化成分の高度利用に関する研究(2)野菜の発芽に及ぼす木酢液の影響	森研情報	22
名取 潤	1995	木材炭化成分の高度利用に関する研究(3)木酢液の立枯病に対する防除効果	森研情報	22
本多琢己	1995	水性分子—イソシアネート系接着剤(API)の接着性(1)架橋剤の添加量が接着性に及ぼす影響	森研情報	22
大澤正嗣	1995	山梨県で開催されたユフロ松さび病部会現地検討会	森研情報	22
長田十九三	1996	富士スバルライン緑化試験について	森研情報	23
田中 格	1996	生育位置の明るさの変化に対して複層林下木ヒノキの葉の形態がどう変わるか?	森研情報	23
本多琢己	1996	カラマツパーティクルボードの試作	森研情報	23
水上 篤	1996	高校生の高性能林業機械研修	森研情報	23
大澤正嗣	1996	クワガタムシの増殖をはじめて	森研情報	23
飯田富士雄	1997	簡易な間伐材搬出について	森研情報	24
三枝 茂	1997	木質タイル調内壁材の開発	森研情報	24
清藤城宏	1997	ケヤキ林の両横綱・信玄堤と稲山 どちらに軍配が上がる?	森研情報	24
戸沢一宏	1997	八ヶ岳薬用植物園オープン	森研情報	24
松谷 順	1997	酸性雨とはどのような現象か	森研情報	24
菊池政泰	1998	富士山なだれ跡地への緑化試験	森研情報	25
三枝 茂	1998	着脱式壁面調内壁材の開発	森研情報	25
田中 格	1998	山梨県の森林における二酸化炭素固定量の試算	森研情報	25
戸沢一宏	1998	特用林産だより—クサボケ—	森研情報	25
中島 俊	1998	廃プラスチックを利用した木材の処理	森研情報	25
西川浩己	1998	高山植物タカネビランジの増殖	森研情報	25
大澤正嗣	1999	カナダで研究しています	森研情報	26

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
小田真二	1999	シラベ人工林におけるニホンジカの被害調査	森研情報	26
柴田 尚	1999	腐菌床の利用によるヤマブシタケの栽培	森研情報	26
田中 格	1999	混交したヒノキおよびクワの生育比較	森研情報	26
戸沢一宏	1999	特用林産だよりーサルナシー	森研情報	26
名取 潤	1999	竹垣の防カビ処理	森研情報	26
松谷 順	1999	伐採地での土壌影響調査	森研情報	26
飯田富士雄	2000	人工林非皆伐更新モデル事業地のその後	森研情報	27
菊池政泰	2000	富士スバルライン沿線の植生遷移について	森研情報	27
柴田 尚	2000	ヌメリスギタケモドキの栽培	森研情報	27
戸沢一宏	2000	特用林産だよりーモミジガサー	森研情報	27
長池卓男	2000	森林生態系と森林管理	森研情報	27
中島 俊	2000	針葉樹フローリングの開発	森研情報	27
松谷 順	2000	山梨県森林生態系モニタリング事業	森研情報	27
小澤雅之	2001	スウェーデンの木質バイオマス利用	森研情報	28
小田真二	2001	富士北麓地域におけるニホンジカの生息動向(ライトセンサス)	森研情報	28
梶原敦子	2001	間伐すると林内ではどんな変化が起こるか	森研情報	28
清藤城宏	2001	モデル森林国際ワークショップに貢献	森研情報	28
戸沢一宏	2001	サルナシの栽培法	森研情報	28
西川浩己	2001	ウルグアイ林木育種計画AICへの派遣	森研情報	28
本多琢己	2001	間伐材を利用したイス、テーブルの試作	森研情報	28
飯田富士雄	2002	ヘリコプター搬出作業事例	森研情報	29
小澤雅之	2002	森林資源を有効に活用しよう	森研情報	29
梶原敦子	2002	富士山の火山堆積土におけるのり面緑化	森研情報	29
長池卓男	2002	ある研究員の研究日誌ー多様な森林管理を目指してー	森研情報	29
中島 俊	2002	炭化産物の品質に関する研究ー口腔内細菌の培養と竹酢液についてー	森研情報	29
名取 潤	2002	簡易防腐処理した小径材の土木用資材への活用	森研情報	29
本多琢己	2002	高温熱処理したスギ材の性質	森研情報	29
大澤正嗣	2003	広葉樹の枝打ち	森研情報	30
柴田 尚	2003	山梨県で見つかったトリュフ	森研情報	30
清藤城宏	2003	山梨県におけるヤツガタケトウヒとヒメバラモミの希少集団	森研情報	30
田中 格	2003	北向き斜面にご用心	森研情報	30
戸沢一宏	2003	ウラボミソウの栽培	森研情報	30
西川浩己	2003	中国からの研修員来所	森研情報	30
松谷 順	2003	カラマツ林における森林土壌の化学性	森研情報	30
久保満佐子	2004	溪畔域を考える	森研情報	31
齋藤 寛	2004	小型高性能林業機械の実力と普及への課題	森研情報	31
三枝 茂	2004	木製品の立体図の作成	森研情報	31
田中 格	2004	ヒノキにおける二酸化炭素固定能力	森研情報	31
長池卓男	2004	ある研究員の研究日誌 2	森研情報	31
名取 潤	2004	外構材の耐用年数を予測する	森研情報	31
本多琢己	2004	アカマツ材を有効利用した機能性LVLの開発	森研情報	31
大澤正嗣	2005	甲虫多様性と森林タイプ	森研情報	32
小澤雅之	2005	木材の新たな挑戦ー木質バイオマスエネルギーー	森研情報	32
源馬傳一	2005	間伐材のネームプレート	森研情報	32
柴田 尚	2005	日本で新たに確認された毒きのこ「ジンガサドクフウセンタケ」	森研情報	32
戸沢一宏	2005	フサスグリの栽培	森研情報	32
西川浩己	2005	今年の春は試連の春になりそうです	森研情報	32
松谷 順	2005	酸性雨に関する研究・ひとまずのまとめ	森研情報	32
久保満佐子	2006	レンゲツツジの保全	森研情報	33
齋藤 寛	2006	林業機械に環境燃料を!	森研情報	33
三枝 茂	2006	ワインボトルラックの開発	森研情報	33
清藤城宏・西川浩己	2006	広葉樹造林を考えるータネの特性、遺伝的多様性からー	森研情報	33
田中 格	2006	樹下植栽された落葉広葉樹の光合成機能	森研情報	33
長池卓男	2006	ある研究員の研究日誌 3	森研情報	33
本多琢己	2006	クワガタのブリード資材に間伐材を利用	森研情報	33
大澤正嗣	2007	クワガタムシ・カブトムシの棲める里山づくり	森研情報	34

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
小澤雅之	2007	北欧見聞録—ノルウェー編—	森研情報	34
柴田 尚・武居正道	2007	きのご栽培施設の清掃効果	森研情報	34
長池卓男	2007	人工林の「高齢化社会」を考える	森研情報	34
名取 潤	2007	ドライバーを使った外構材の簡易劣化診断	森研情報	34
林 敦子・久保満佐子	2007	林道のり面の緑化を考える	森研情報	34
本多琢己	2007	エクステリアに適した高機能性LVLの開発	森研情報	34
小澤雅之	2008	小型ベレット製造装置	森研情報	35
齋藤 寛	2008	ザウルスロボで効率的な路網開設作業が期待できます	森研情報	35
柴田 尚	2008	平成19年きのご中毒始末記	森研情報	35
田中 格	2008	異なる光環境で生育した落葉広葉樹の光合成能力	森研情報	35
長池卓男	2008	森を調べる—10年間の森林生態系モニタリング調査事業から—	森研情報	35
本多琢己	2008	エクステリアに適した高機能性LVLの開発	森研情報	35
本多琢己	2008	針葉樹材の圧密化技術の開発	森研情報	35
大澤正嗣	2008	カツラマルカイガラムシの被害が広がっています	森研情報	35
齋藤 寛	2009	あなたの森林に適した低コスト作業システムは？	森研情報	36
三枝 茂	2009	木材の強度測定	森研情報	36
三枝 茂	2009	土木・建築製品の製作	森研情報	36
田中涼子	2009	上ノ原草原ってどんなところ？	森研情報	36
長池卓男	2009	川沿いの林とのつきあい方	森研情報	36
名取 潤	2009	間伐材を地元で、土木用材などに活用してもらうことを考える	森研情報	36
田中 格	2010	帯状伐採による林床への落葉広葉樹の導入	森研情報	37
戸沢一宏	2010	ワラビのブタキロサイドの含有量の測定	森研情報	37
戸沢一宏	2010	薬用ニンジン栽培の簡易栽培	森研情報	37
西川浩己	2010	高山植物タカネマンテマのバイテクによる増殖	森研情報	37
大澤正嗣	2010	ケヤキの害虫ヤノナミガタチビタムシを研究して	森研情報	37
飯島勇人	2011	山梨県有林におけるニホンジカによる森林と植生への影響	森研情報	38
大澤正嗣	2011	カラマツマルカイガラムシは苗木と一緒に移動し広がります	森研情報	38
小澤雅之	2011	水に流せない話もある	森研情報	38
柴田 尚	2011	新たな特産品「ブナハリタケ」の栽培	森研情報	38
本多琢己	2011	集成材の生産効率化のための品質管理技術の開発	森研情報	38
三枝 茂	2012	スギ心持ち無背割り柱材の高温低湿処理と天然乾燥	森研情報	38
三枝 茂	2012	スギ心持ち無背割り柱材の高温低湿処理と天然乾燥	森研情報	39
田中 格	2012	長伐期施業の推進に対応した育林技術の開発	森研情報	38
田中 格	2012	長伐期施業推進のための育林技術の開発	森研情報	39
戸沢一宏	2012	木炭等の土壌改良への利用に関する研究	森研情報	39
長池卓男	2012	針葉樹の人工林に広葉樹を生やすことのハードル	森研情報	39
長池卓男	2012	ドングリとツキノワグマの関係	森研情報	39
大澤正嗣	2013	ナラ枯れはどこから山梨県に侵入してくるのか	森研情報	40
大津千晶	2013	増えたニホンジカは山地の草原にどんな影響を与えるか？	森研情報	40
小澤雅之	2013	切っても切れない話もある	森研情報	40
田中 格	2013	針葉樹人工林を針広混交林に導入するための上木の伐採方法	森研情報	40
戸沢一宏	2013	特用林産物の機能性成分に関する研究	森研情報	40
大澤正嗣	2014	カラマツ長伐期林の根株心腐病を軽減するために	森研情報	41
大津千晶	2014	増えたニホンジカは山地の草原にどんな影響を与えるか？	森研情報	41
小澤雅之	2014	バイオマスのコストについて考えて見る	森研情報	41
田中 格	2014	森林の水涵養機能の主役は森林の土	森研情報	41
長池卓男	2014	ニホンジカを巡る課題	森研情報	41
西川浩己	2014	高山植物ミヤマハナシノブのバイテクによる増殖	森研情報	41
本多琢己	2014	新しい構造用集成材に関する技術開発	森研情報	41
小澤雅之	2015	未利用木質資源のエネルギー用材化	森研情報	42
三枝 茂	2015	高温乾燥における柱材の材面割れの削減	森研情報	42
田中 格	2015	人工造林地に侵入したタケの駆除に関する実証試験	森研情報	42
田中 格	2015	群状伐採による森林造成技術の開発	森研情報	42
戸沢一宏	2015	アラゲキクラゲの簡易原木栽培法	森研情報	42
長池卓男	2015	半自然草地の復元—楡形山をニホンジカから守るには—	森研情報	42
西川浩己	2015	希少種及び都市緑化に適した品種の開発と増殖	森研情報	42

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
【専門誌等】				
遠藤 昭・小林福治	1966	林業構造改善事業の一環としての早期育成林の造成	森林と肥培	45
雨宮嘉彦	1966	図表を使った新しい収穫量の推定法	林業やまなし	47
安藤愛次	1966	ヨーロッパ帰朝報告その4	林業やまなし	45
安藤愛次	1966	ヨーロッパ帰朝報告その5	林業やまなし	46
安藤愛次	1966	ヨーロッパ帰朝報告その6	林業やまなし	47
石原義久	1966	趣味と実益をかねたみやげ品作り	林業やまなし	48
遠藤 昭	1966	本年度の試験研究および指導計画	林業やまなし	46
遠藤 昭	1966	林業試験場の得た最近の研究成果	林業やまなし	48
小林福治	1966	カラマツの材質試験を見せていただいて	林業やまなし	48
渡瀬 彰	1966	カラマツ先枯れ病について	林業やまなし	45
馬場勝馬	1967	山梨県における寒地性樹の造林成績	山林	1003
古越隆信	1967	森と湖の国フィンランドの林業	山林	999
古越隆信	1967	本州産モミ属の耐冬性の違い	北海道の林木育種	10
安藤愛次ほか	1967	諸外国の林業試験研究	林業技術	309
雨宮嘉彦(訳)	1967	森林雑草の化学的抑制(1)	林業と薬剤	22
雨宮嘉彦(訳)	1967	森林雑草の化学的抑制(3)	林業と薬剤	24
安藤愛次	1967	関東中部地方の林地除草剤施用基準試案	林業と薬剤	23
馬場勝馬	1967	山梨県におけるストロブマツの造林成績	林業やまなし	49
遠藤 昭	1967	早期育成林の技術体系	林業やまなし	50
古越隆信	1967	新しい挿木技術－原理と方法－	林業やまなし	50
雨宮嘉彦	1967	英国における林地除草	林業やまなし	52
渡瀬 彰	1967	これからのホダ場管理	林業やまなし	52
渡瀬 彰	1967	カラマツ球果を食害するカラマツタネバエ	林業やまなし	53
古越隆信	1967	林木育種試験の現況 1958～1967年	林業やまなし	54
安藤愛次	1967	国際カリ会議主催の"林地肥培シンポジウム"に出席して	林地肥培	50
安藤愛次	1968	植え付け・寒害・林地除草	林業技術	311
渡瀬 彰	1968	カラマツの害虫、カラマツマダラメイガ	林業やまなし	55
長田十九三・広瀬弘江	1968	山梨県のポプラ造林について－ヤセ地に対するポプラの品種－	林業やまなし	56
雨宮嘉彦	1968	薬剤によるニセアカシヤの枯殺	林業やまなし	58
中島政光	1968	地ごしらえに専用機を	林業やまなし	60
古越隆信	1969	芽出しまき	林業やまなし	62
菊池政泰	1969	植生盤	林業やまなし	63
安藤愛次	1969	自然保護(1)	林業やまなし	64
安藤稜威雄	1969	下刈りの省力技術は	林業やまなし	64
長田十九三	1969	アカマツ・カラマツの秋まき	林業やまなし	65
安藤愛次	1969	自然保護(2)開発と保護の調和点	林業やまなし	65
安藤愛次	1969	自然保護 緑の失地回復	林業やまなし	66
中島政光	1970	単線循環式軽架線の理論式とこの作業の合理化のいろいろ	機械化林業	214
中島政光	1970	下刈り機用丸鋸の目立てのやり方	機械化林業	219
清藤城宏	1970	クロマツおよびアカマツの染色体形態の研究	新潟大学演習林報告	5
遠藤 昭	1970	アカマツ造林地を加害するノウサギに対するアンレスの忌避効果	農業時代	98
小林福治	1970	スギ苗の性質と造林成績	林業やまなし	67
石原義久	1970	県産ツガ材の特性	林業やまなし	68
斉藤博美	1970	草生造林	林業やまなし	69
河澄長吉	1970	竹の開花病	林業やまなし	70
長田十九三	1970	とりき－高取法と盛土法－	林業やまなし	71
遠藤 昭	1971	ヒノキのトックリ病とその発生環境	森林防疫	20
山内政人	1971	山梨県林業の旗手 林業試験場の完成	林業やまなし	70
安藤稜威雄	1971	新しいワサビ田の構造	林業やまなし	72
安藤稜威雄	1971	大気汚染と樹木	林業やまなし	73
渡辺利一	1972	ヒノキ造林木の枝節性	林業やまなし	74
遠藤 昭	1972	森林病虫害の防除と今後の方向	林業やまなし	75
望月長雄	1972	モウソウ竹の新植	林業やまなし	75
山内政人	1972	ことしの林業試験研究の課題	林業やまなし	77

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
安藤稜威雄	1972	ワサビの品種について	林業やまなし	78
遠藤 昭	1972	アカマツ林の害虫マツバノタマバエ	林業やまなし	79
小林福治	1973	シラベの枝打ち	林業やまなし	80
馬場勝馬	1973	スギの耐凍性	林業やまなし	81
山内政人	1973	つつじが崎自然園	林業やまなし	81
渡辺利一	1973	これからの木材	林業やまなし	81
石原義久	1973	間伐材の利用	林業やまなし	82
遠藤 昭・渡辺利一	1973	生丸太の防腐・防虫	林業やまなし	83
依田和幸	1974	富士スバルライン沿線における郷土植物の株植え試験	緑化工技術	2
山内政人ほか	1974	富士スバルライン沿線の緑化	林業技術	396
清藤城宏	1974	アイソザイム	林業やまなし	84
望月長雄	1974	さし木の発根促進剤	林業やまなし	85
遠藤 昭	1974	高質材の生産	林業やまなし	86
依田和幸ほか	1975	富士スバルラインの開設と現況	道路と自然	8
遠藤 昭	1975	高質材の生産	林業やまなし	87
依田和幸	1975	緑化樹の山取法	林業やまなし	88
依田和幸ほか	1976	社寺有林の研究5(山梨)	緑地研究会報	5
遠藤 昭	1976	峡南地方に発生したスギ黒粒葉枯病	林業やまなし	90
渡辺利一	1976	人造シボ丸太の作り方	林業やまなし	90
秋山喜蔵	1976	端材を利用した集成材	林業やまなし	91
依田和幸	1976	高冷地の緑化復元	林業やまなし	92
花房 尚	1977	寒さに強い苗木の形質	林業やまなし	93
馬場勝馬	1977	マツノザイセンチュウとマツノマダラカミキリの防除	林業やまなし	95
渡辺利一	1977	小径材の形質	林業やまなし	96
依田和幸	1978	富士スバルライン沿線植生の復元に関する実験	植物と自然	
菊地政泰ほか	1978	マサ土地帯における山腹緑化工施工跡地の植生遷移	治山	
花房 尚	1978	群状植栽法と寒さ害の防除効果	林業やまなし	97
長田十九三	1978	林木の芽出しまき	林業やまなし	98
渡瀬 彰	1979	山梨県におけるマツノザイセンチュウの分布とその被害状況	森林防疫	28
清藤城宏ほか	1979	林地放牧下における林内野草の特性	山梨県酪農試験場報告	8
馬場勝馬	1979	マツクイムシの薬剤防除	林業やまなし	101
渡瀬 彰	1979	針葉樹によるシイタケ栽培	林業やまなし	101
渡辺利一	1979	カラマツ間伐材を利用した集成材	林業やまなし	102
名取 潤	1979	カラマツ材の脱脂方法	林業やまなし	102
清藤城宏	1979	花粉症について	林業やまなし	103
長田十九三	1979	林木育種事業と育種研究	林木の育種	114
秋山喜蔵	1980	造林カラマツ大径木の製材木取	木材工業	35
名取 潤	1980	木材の青カビ除去と防カビ処理	林業やまなし	104
馬場勝馬	1980	マツノシントメタマバエとマツ皮目枝枯病	林業やまなし	104
秋山喜蔵	1980	手引鋸の目立法	林業やまなし	105
清藤城宏	1980	複層林の施業方法	林業やまなし	105
渡瀬 彰	1980	サクラのテングス病の防ぎ方	林業やまなし	105
清藤城宏	1980	カラマツ精英樹の繊維傾斜度	林木の育種	115
名取 潤	1981	生材接着による集成加工	木材工業	409
渡瀬 彰	1981	スギ、ヒノキを加害する穿孔性害虫	林業やまなし	106
渡辺利一	1981	広葉樹根株、端材の加工方法	林業やまなし	106
長田十九三	1981	最近の苗畑除草剤	林業やまなし	107
馬場勝馬	1981	キハダの造林	林業やまなし	107
菊地政泰	1982	山腹工既施工地の植生遷移	林業やまなし	107
秋山喜蔵	1982	小径材専用製材機の種類と特徴	林業やまなし	108
渡辺利一	1982	その後のカラマツモデルハウス	林業やまなし	108
名取 潤	1982	スギ黒心の色ぬき	林業やまなし	109
馬場勝馬	1982	松くい虫被害の見分け方	林業やまなし	110
馬場勝馬ほか	1982	松枯れの問題の中から	林業やまなし	110
名取 潤ほか	1982	集成材の日本農林規格	林業やまなし	111
萩野 務	1982	ピッターリッヒ法による材積推定	林業やまなし	111
柴田 尚	1983	マイタケのつくり方	林業やまなし	112
清藤城宏	1983	最近の除草剤	林業やまなし	112

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
大橋邦夫	1983	地域林業振興上の課題—類型区分による事例分析—	林業やまなし	113
菊地政泰	1983	森林の山地崩壊防止機能の限界	林業やまなし	113
藤本登留	1983	木材の除湿乾燥方法	林業やまなし	113
柴田 尚	1983	クリタケの栽培法	林業やまなし	114
名取 潤	1983	木口円盤の簡単な乾燥方法	林業やまなし	114
渡辺利一	1983	県産広葉樹材利用の現状と今後の課題	林業やまなし	114
長田十九三ほか	1984	富士スバルラインに見る植生の回復	林業技術	506
清藤城宏	1984	植物利用によるクズの除去法	林業やまなし	115
柴田 尚	1984	毒きのこの見分け方	林業やまなし	116
名取 潤	1984	ヒノキ根曲り材を利用した家具の試作	林業やまなし	117
藤本登留	1984	ソーラー・ドライヤーについて	林業やまなし	118
清藤城宏	1985	林木におけるバイオテクノロジー利用	林業やまなし	118
柴田 尚	1985	カラマツ間伐材によるきのこ栽培	現代林業	228
名取 潤	1985	割れの出ない木口円盤の乾燥方法	現代林業	229
馬場勝馬	1985	ヨーロッパトウヒのつちくらげ病	森林防疫	400
馬場勝馬	1985	山梨県における松くい虫被害の現状と防除対策	森林防疫	404
馬場勝馬	1985	スギカミキリの被害について	林業やまなし	119
藤本登留	1985	最近の木材防腐・防蟻について	林業やまなし	119
清藤城宏ほか	1985	冠雪害について	林業やまなし	120
名取 潤	1985	松くい虫被害材の有効利用に向けて	林業やまなし	120
清藤城宏	1986	ヒノキの種子が採種圃から100%生産	現代林業	235
菊地政泰	1986	山岳雨量と平場雨量	林業やまなし	121
柴田 尚	1986	山梨県のきのこ方言	林業やまなし	121
藤本登留	1987	富士川林業地域の優良材品質調査	林業やまなし	122
田中 格ほか	1986	有用広葉樹林の仕立て方	林業やまなし	123
馬場勝馬	1986	雪害木と松くい虫被害	林業やまなし	123
名取 潤	1987	マツクイムシ被害材の有効利用	現代林業	239
名取 潤	1987	間伐材を利用したブドウ棚用支柱の開発	現代林業	255
名取 潤	1987	ブドウ棚の支柱	林業新知識	406
菊地政泰ほか	1987	森林の土壌侵食防止機能とモデル林の測定結果	林業やまなし	124
清藤城宏	1987	マツクイムシ抵抗性と華松について	林業やまなし	124
藤本登留	1987	木造建築物に係る建築基準法の改正	林業やまなし	125
名取 潤	1987	木材乾燥をめぐる最近の動き	林業やまなし	126
清藤城宏ほか	1987	採種圃におけるスギカミキリの被害と防除	林木の育種	特別号
大橋邦夫	1988	山梨県有林の成立過程に関する一考察	森林文化研究	8
名取 潤ほか	1988	ブドウ支柱の防腐処理	木材保存	14
菊地政泰	1988	最近の緑化工技術とその問題点	林業やまなし	127
柴田 尚	1988	きのこのバイオテクノロジー	林業やまなし	128
田中 格	1988	効果的施肥技術によるヒノキ植栽木の早期育成技術	林業やまなし	128
菊地政泰	1988	花崗岩マサ土地帯における林道法面緑化試験施工	林道	
清藤城宏	1989	カメムシ防除でヒノキ種子の発芽率向上	現代林業	8
清藤城宏	1989	バイオテクノロジーを利用した林木増殖技術	林業やまなし	129
大澤正嗣	1989	カラマツ根株心腐病	林業やまなし	129
大澤正嗣	1990	ナラタケ病による被害と対策	林業やまなし	132
田中 格	1990	カラマツ—ヒノキの複層林造成技術	林業やまなし	132
田中 格	1990	欧州における森林のリゾート利用現況	林業やまなし	133
長田十九三	1990	苗畑除草剤と施用方法	林業やまなし	133
菊地政泰	1990	法面緑化工へのアカマツ種子の混種	林業やまなし	133
名取 潤	1990	木炭粉、木酢液の農業的利用について	林業やまなし	134
清藤城宏	1990	ヒノキ採種圃におけるカメムシの防除効果	林木の育種	特別号
名取 潤	1991	木炭粉、木酢液を使った野菜栽培	現代農業	
菊地政泰	1991	酸性雨と樹木	林業やまなし	135
安藤稜威雄	1991	ワサビの林内栽培について	林業やまなし	136
田中 格	1991	高収入を目指す天然広葉樹林の育成	林業やまなし	136
三枝 茂	1991	ソーラー乾燥によるヒノキ柱材の割れない乾燥 その1 ソーラー乾燥装置の紹介	林業やまなし	137
大澤正嗣	1991	まつ病害虫の特徴と対策	林業やまなし	137
清藤城宏	1991	山梨県におけるヒノキ天然林のアイソザイム変異	林木の育種	160
水上 篤	1992	山梨県における機械化の現状	機械化林業	469

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
大澤正嗣	1992	カラマツ根株心腐病への対策	現代林業	
田中 格	1992	カラマツーヒノキ帯状複層林の造成	現代林業	314
大澤正嗣	1992	長野県佐久地方におけるカラマツ根株心腐病菌	森林防疫	41
大澤正嗣	1992	山梨県におけるカラマツ先枯病の被害状況とその防除対策について	森林防疫	41
大澤正嗣ほか	1992	The time of infection of butt-rot fungi into larch trees	筑波大学演習林報告	8
本多琢己・三枝 茂	1992	ヒノキ柱材の加湿太陽熱乾燥	木材工業	47
柴田 尚	1992	ムキタケの栽培	林業やまなし	138
西川浩己	1992	林木におけるバイオテクノロジー	林業やまなし	138
本多琢己	1992	「針葉樹の構造用製材のJAS規格」の制定について	林業やまなし	139
柴田 尚	1992	ハタケシメジの栽培	林業やまなし	140
戸沢一宏	1993	バイオテクノロジーを利用したきのこの品種改良	林業やまなし	140
西川浩己	1992	高山植物の組織培養による増殖	林木の育種	164
大澤正嗣	1993	カラマツ心腐病の被害実態調査	関中林試連情報	17
菊地政泰	1993	林道法面の多様な緑化に向けて	第30回林道研究会記念論文集	—
中島 俊・名取 潤	1993	木質系廃材の資源化に関する研究(第2報)	山梨県工業技術センター研究報告	7
大澤正嗣	1993	ヒノキ漏脂病の被害状況について	林業やまなし	141
名取 潤	1993	防腐処理した杭丸太の耐久性	林業やまなし	141
本多琢己	1993	シラベにおける未成熟材の区分とその範囲	林業やまなし	142
大澤正嗣	1994	カラマツ根株心腐病の被害と樹齢の関係	関中林試連情報	18
水上 篤	1994	山梨県森林総合研究所オープンと林業機械化への取り組み	機械化林業	493
大澤正嗣	1994	カナダにおける最近の樹病研究—北方森林研究所での研究を中心に—	森林防疫	43
柴田 尚	1994	カラマツ林を利用したハナイグチの増殖	特産情報	16
三枝 茂	1994	林地残材の有効利用について	林業やまなし	144
本多琢己	1994	水性高分子イソシアネート系接着剤の接着性	林業やまなし	144
大澤正嗣	1994	カナダの林業	林業やまなし	144
菊地政泰	1994	森林の多面的機能の計量化	林業やまなし	145
馬場勝馬	1994	山梨県における山地、丘陵地の土壌分類について	林業やまなし	146
田中 格	1994	樹幹うっ閉度による林内相対照度の推定	林業やまなし	147
大澤正嗣	1995	高山神代桜	Tree Doctor	3
柴田 尚	1995	富士山の森林ときのこ	おんしりん	32
名取 潤	1995	防腐処理した小丸太の野外耐久性	木材保存	21
戸沢一宏	1995	マイタケの原木栽培	林業やまなし	148
大澤正嗣	1995	平成6年度に依頼を受けた樹木の診断	林業やまなし	149
水上 篤	1995	高性能林業機械の作業事例	林業やまなし	151
三枝 茂	1996	カラマツ材を利用したタイル調内壁材	森の研究	—
西川浩己	1996	オノオレカンバの印章材利用	林業技術	566
戸沢一宏	1996	ウコギ・モミジガサの栽培	林業やまなし	152
西川浩己	1996	オノオレカンバのバイオテクによる苗木生産	林業やまなし	153
本多琢己	1997	カラマツ廃材からボードを造る	林業やまなし	153
本多琢己	1997	カラマツを原料とするパーティクルボードの試作	関中林試連情報	21
大澤正嗣	1997	カラマツは傷つけない	現代林業	374
清藤城宏	1997	地域における林木育種	林業技術	668
柴田 尚	1997	廃菌床の利用によるヤマブシタケの栽培	林業やまなし	155
松谷 順	1998	持続可能な森林経営のための森林環境モニタリング	関中林試連情報	22
本多琢己ほか	1998	単層積層材(LVL)の材質改良技術に関する研究—木材とガラスクロス接着性および複合LVLの試作—	山梨県工業技術センター研究報告	12
柴田 尚	1998	カラマツオガクズ混合培地によるヌメリシギタケモドキの栽培	林業やまなし	158
戸沢一宏	1998	特産情報ネットワークについて	林業やまなし	159
清藤城宏・西川浩己	1998	山梨県における林木育種の展開	林木育種センターたより	18
西川浩己・清藤城宏	1998	山梨県森林総合研究所における希少植物の保護増殖	林木の育種	188
西川浩己ほか	1998	印章材としてのオノオレカンバの増殖	林木の育種	特別号
長池卓男	1999	ブナ林域におけるスギ人工林の植物種多様性—人工林にはどのような種が出現するのか?—	遺伝	53

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
本多琢己ほか	1999	単層積層材(LVL)の材質改良技術に関する研究(第2報)ーガラスクロス複合LVLの力学的性能ー	山梨県工業技術センター研究報告	13
長池卓男	1999	生物多様性の保全を目指した森林管理に関する研究動向ーこれまでとこれからー	林業技術	690
田中 格	1999	広葉樹人工造林マニュアル	林業やまなし	159
西川浩己	2000	「富沢林木育種園」の事務所移転	関中林試連情報	24
飯田富士雄	2000	タワーヤードによるカラマツ人工林の効率的な間伐作業方法の検討	林業技術	709
柴田 尚	2000	亜高山帯のきのこの発生と気象	林業やまなし	165
清藤城宏	2000	新世紀と林木育種	林木の育種	194
清藤城宏	2000	ヒノキ採種園の花粉管理	林木の育種	197
西川浩己	2000	印章材としてのオノオレカンバの利用	林木の育種	194
長池卓男	2001	ブナ林域における森林管理が地域の植物種多様性に及ぼす影響	国際景観生態学会日本支部会報	6
長池卓男・林 敦子	2001	カラマツ人工林におけるニホンジカの剥皮と林分及び景観構造の関係	国際景観生態学会日本支部会報	6
柴田 尚	2001	本州中部亜高山帯針葉樹林のきのこ	森林科学	30
柴田 尚ほか	2001	キノコ生育環境におけるセシウムの挙動ーキノコ生育土壌中の微生物との関わりー	全国衛科技協年会	37
大澤正嗣	2002	「モデル森林の推進に関する国際ワークショップ」の開催について	林業やまなし	165
田中 格	2001	人工林に発生した森林被害	林業やまなし	167
清藤城宏	2001	ヒノキ採種園の花粉管理に関する遺伝育種学的研究	林木の育種	200
田中 格	2002	気象環境に基づくスギ雄花着花量の推定	林業やまなし	170
西川浩己・清藤城宏・神戸陽一	2002	ヤマナラシの大量増殖	林木の育種	特別号
西川浩己ほか	2002	日中協力・友好の未来を拓くーJICA中国研修員の組織培養等増殖技術研修についてー	林木の育種	205
大澤正嗣ほか	2003	カラマツ根株腐朽病の被害実態と被害回避	森林防疫	52
大澤正嗣	2003	富士山麓に進行しつつある松くい虫	林業やまなし	
名取 潤	2003	簡易防腐処理してマツクイムシ被害材の高度活用を	林業やまなし	173
西川浩己	2003	新春随想 未来を作る種	林木の育種	206
大澤正嗣ほか	2004	富士山麓に発生したトウヒツヅリハマキの天敵糸状菌調査	(独)森林総合研究所報告	3
小澤雅之	2004	山梨県地域における木質バイオマスエネルギーの普及に向けた取り組み	環境技術	33
大澤正嗣ほか	2004	富士山麓に発生したトウヒツヅリハマキの被害	森林防疫	53
西川浩己・清藤城宏ほか	2004	オノオレカンバの持続的利用における育種および保全に関する計画	北海道の林木育種	46
長池卓男	2004	「生物多様性」とは何か?	林業やまなし	175
西川浩己	2004	関東・中部地区における種苗関係事業の実施状況について	林木の育種	特別号
小澤雅之	2005	私たちの生活とエネルギー	恩賜林	70
大澤正嗣	2005	森林における昆虫多様性の研究	関中林試連情報	29
柴田 尚・戸沢一宏	2005	森林環境の指標生物としての菌類に関する研究	公立林業試験研究機関研究成果選集	2
長池卓男	2005	生物多様性を考えた生態的な森林管理	森林計画研究会会報	418
大澤正嗣	2005	富士山麓のシラビソ人工林に大きな被害をもたらしたトウヒツヅリハマキ大発生	林業やまなし	177
柴田 尚	2005	試験研究の成果を普及に生かす	林業やまなし	178
長池卓男	2005	人工林の間伐をめぐる最近の話題	林業やまなし	180
西川浩己・神戸陽一	2005	林木種子の長期貯蔵について	林木の育種	特別号
本多琢己	2006	アカマツ材を有効利用した機能性LVLの開発	関中林試連情報	30
大澤正嗣	2006	森林タイプ及び森林施業の甲虫多様性への影響	公立林業試験研究機関研究成果選集	3
小澤雅之	2006	林地残材の各種状態調査	山梨県総合理工学研究機構研究報告	1
田中 格	2006	葉の生理生態的特性に基づく複層林下木ヒノキの光管理指針	林業やまなし	182
林 敦子・久保満佐子	2006	林道切土のり面の播種工施工箇所における植生(木本類)成立要因	林道	424
田中 格・神戸陽一	2007	天然記念物「富士山北麓レンゲツツジ群落」の保全	森林科学	49
長池卓男	2007	森林の植物種の多様性をはかる	森林科学	50
名取 潤	2007	山梨県の木材保存分野の研究の取り組み	木材保存	33

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
小澤雅之	2007	山梨県地域における林地残材の堆積状況	山梨県総合理工学研究機構研究報告	2
田中 格	2008	伐採率および伐採方法が異なる複層林に樹下植栽されたヒノキの生育	関中林試連情報	32
柴田 尚	2008	施設栽培きのこの微生物被害の防除対策	公立林業試験研究機関研究成果選集	5
長池卓男	2008	山梨県森林生態系モニタリング調査事業から	森林技術	792
長池卓男	2008	長伐期林への道しるべー生態的な森林管理における位置づけー	森林技術	796
小澤雅之	2008	山梨県地域における林地残材のエネルギー源化の可能性	山梨県総合理工学研究機構研究報告	3
長池卓男	2008	ニホンジカによる樹木への食害	山梨県総合理工学研究機構研究報告	3
田中涼子・林 敦子・久保満佐子	2009	生物多様性保全を目指した半自然草地の管理指針	公立林業試験研究機関研究成果選集	6
柴田 尚	2009	毒きのこに気をつけよう	食と健康	633
大澤正嗣	2009	萬休院の舞鶴マツの松くい虫による枯死	森林防疫	58
大澤正嗣	2009	森林昆虫研究最近の動向ー第120回日本森林学会大会よりー	森林防疫	58
田中 格	2009	研究成果を組み込んだ落葉広葉樹の適地判定マニュアルの作成	林業やまなし	190
大澤正嗣	2010	ヤノナミガタチビタマムシの生態の解明と被害の軽減	公立林業試験研究機関研究成果選集	7
長池卓男	2010	今、南アルプス白根三山周辺で起こっていることーニホンジカの影へ	日本高山植物保護協会	62
長池卓男ほか	2010	Stand dynamics of a cool-temperate old-growth forest in the foothills of Mt. Fuji, central Japan	富士山研究	4
飯島勇人	2011	山梨県有林におけるニホンジカによる剥皮状況	関中林試連情報	35
小田真二・大澤正嗣	2011	山梨県におけるカシノナガキクイムシの侵入防止対策について	林業やまなし	196
大澤正嗣	2011	東日本で発生しているカツラマルカイガラムシの被害と対策ー山梨県の被害からー	林木の育種	239
長池卓男	2012	下刈り高を高くすればニホンジカによる植栽木の剥皮を防げるか？	関中林試連情報	36
田中 格	2012	帯状伐採および強度間伐された林床に植栽された落葉広葉樹の成長	現代林業	554
田中 格	2012	長伐期施業推進のための育林技術の開発	公立林業試験研究機関研究成果選集	9
三枝 茂	2012	土産用木製ワインボトルラックの制作	木材工業	67
大澤正嗣・長池卓男	2012	四川省へ研究協力へ行ってきました	林業やまなし	200
田中 格	2012	将来の収穫予測ができる「山梨県版システム収穫表」の作成と長伐期に対応した間伐指針	林業やまなし	200
大津千晶	2012	山梨県で過去5年間に施工された緑化施工地はどのような状態にあるか？ー斜面の安定化と生物多様性への配慮の面からー	林道	495
小澤雅之	2013	未利用木質バイオマスによるエネルギー用材化	公立林業試験研究機関研究成果選集	9
田中 格	2013	長伐期施業推進のための育林技術の開発	公立林業試験研究機関研究成果選集	9
大澤正嗣	2013	広葉樹林におけるカツラマルカイガラムシの大発生ー山梨県での発生から終息までー	森林防疫	62
長池卓男	2013	南アルプスでのニホンジカの影響と対策に関する研究	全国林業試験研究機関協議会会誌	47
大澤正嗣	2013	恐ろしい「ナラ枯れ」を山梨県に侵入させないために	林業やまなし	201
西川浩己ほか	2013	広葉樹の地域性種苗の植栽について	林木の育種	246
大津千晶	2014	ニホンジカ影響下の半自然草原における植生復元	関中林試連情報	38
飯島勇人	2014	森林鳥獣研究最近の動向ー第124回日本森林学会大会よりー	森林防疫	62
長池卓男	2014	ニホンジカも山を登るー南アルプスでのニホンジカの影響についてー	林業やまなし	204
大澤正嗣	2014	世界遺産富士山を松くい虫被害から守ろうー高標高における松くい虫対策ー	林業やまなし	205

【著書】

大橋邦夫	1984	ブドウ産地帯における農林複合経営の確立	林業改良普及双書	88
柴田 尚	1987	山梨のきのこ	山梨日日新聞	—
柴田 尚	1987	改訂版山梨のきのこ	山梨日日新聞	—

発表者名	発表年	題名	雑誌名・学会名等	号など
馬場勝馬	1988	カラ―解説 庭木・花木・林木の病害	養賢堂	―
菊地政泰	1991	緑化技術用語事典	山海社	分担
柴田 尚	1992	Higher basidiomycetes from Pakistan	Flora of Pakistan Vol.1	―
大澤正嗣	1992	ムササビ	哺乳類による森林被害 ウオッチング	林業科学技術 振興所
名取 潤	1996	コマツナとハウレンソウを中心に微生物の研究	木酢液の不思議	林業改良普及 双書122
柴田 尚	1997	きのこは木の子、きのこ狩りのコツ	きのこの100不思議	―
大澤正嗣	1998	アカマツ・クロマツ根株心腐病、アカマツ・クロマツ幹心腐病、 カラマツ癌腫病ほか9病害	日本植物病害大辞典	全国農村教育
松谷 順	1999	忍野八海・八ヶ岳南麓湧水群・白州尾白川	続 名水を科学する	分担
柴田 尚	2001	ハナイグチ	キノコ栽培全科	―
柴田 尚	2001	ハナイグチ	食品加工総覧	11
柴田 尚	2001	アマタケ	食品加工総覧	12
大澤正嗣	2002	針葉樹材質腐朽病	森をまもる	全国森林病虫 獣害防
大澤正嗣	2004	カラマツの幹心材腐朽病	元気な森の作り方	日本緑化セン
大澤正嗣	2004	カラマツ幹心腐病・カラマツ腐心病・カラマツのならたけ病	農業総覧 花卉病害 虫防除編	農山漁村文化
長池卓男ほか	2005	Rehabilitation for species enrichment in abandoned coppice forests in Japan	Restoration of boreal and	―
長池卓男	2005	新潟のブナ林	植物群落モニタリング のすすめ	―
長池卓男	2005	真っ赤な果実の行方―チョウセンゴミシ―	森の花を楽しむ101 のヒント	―
長池卓男	2005	風変りなサクランボ―ミヤマザクラ―	森の花を楽しむ101 のヒント	―
柴田 尚	2006	森のきのこたち―種類と生態―	八坂書房	―
長池卓男	2007	種多様性の保全―種数が多ければすばらしい森林か?―	主張する森林施業論	―
大澤正嗣	2009	カラマツ幹心腐病、ケヤキ幹心腐病ほか	樹木被害デジタル図鑑	―
大澤正嗣	2010	材質腐朽病の基礎知識、腐朽病の診断と対策ほか	樹木医必携	日本樹木医会
長池卓男	2010	人工林で生物多様性をどう考えるか	森林環境2010	―
長池卓男	2013	白峰三山におけるニホンジカによる摂食の現状	南アルプス―白峰三 山の自然―	―

VI. 山梨県森林総合研究所研修事業

1 研修事業の歩み

山梨県森林総合研究所は森林、林業及び木材業等に関する試験研究機関であると同時に、県内林業者等の育成のための研修実施機関としての役割を長く担ってきました。

前身である林業技術センターの時代をはじめ、その歴史は昭和 24 年 12 月に設置された木工指導所までさかのぼることができます（表・1）。

表・1 研修実施機関の変遷

年月	内容
昭和 25 年 1 月	木材工業指導所を設置
昭和 37 年 4 月	木材工業指導所を林業指導所に改組
昭和 43 年 3 月	林業指導所を廃止
昭和 43 年 4 月	林業研修所を設置。昭和 44 年度より研修を実施し、年間延べ 3,000 人ほどが研修を受講
昭和 59 年 4 月	林業試験場、林産事務所、林業研修所が統合され、林業技術センターに改組
平成 6 年 4 月	山梨県森林総合研究所に改組。現在に至る

2 研修の概要

現在、実施している主な研修は表・2 のとおりです。これらは「山梨県森林総合研究所研修規程」、「山梨県森林総合研究所研修実施要領」等に基づき、関係機関からの要望を参考にしながら年間実施計画を策定しています。

表・2 研修の種類

種類	概要	主な研修
基礎研修	林業へ就業を希望する者並びに新規に林業へ参入を希望する事業者経営者及びその従業員を対象とし、林業の基礎的な知識・技術を習得するための研修	教員指導者養成研修 新規参入支援研修
専門研修	林業者、林業後継者、林業技術者、林業従事者、新規に林業に参入を希望している事業者経営者及びその従業員等を対象とし、林業の専門的な知識・技術を習得するための研修	林業架線作業主任者免許講習 各種安全衛生教育（チェーンソー伐木、集材機運転等） 森林作業道作設研修
技能者養成研修	林業従事者を対象として実施する、「緑の雇用現場技能者育成研修」の一部科目	かかり木処理 高性能林業機械操作

3 研修事業の今とこれから

現在、国内では施業の集約化、路網の整備、人材の育成等による効率的かつ安定的な林業経営の確立に向けた取組が進められています。そうした中、研修事業に求められる役割は今後ますます大きくなっていくことが予想されます。

実施体制の縮小化など様々な課題がありますが、県内林業の発展に寄与できるよう、関係者と協力しながら効果的な研修の実施に努めていくことが求められます。

VII. 創立 80 周年関連行事等の概要

○記念式典・記念講演会

平成 27 年 10 月 1 日（木）（創立記念日） 山梨県森林総合研究所大研修室

感謝状贈呈：木平勇吉氏（東京農工大学名誉教授）、井出雄二氏（東京大学教授）

記念講演：田中 浩氏（国立研究開発法人 森林総合研究所理事 [研究担当]）「これからの森林・林業研究にもとめられるもの：ローカルからグローバルへつながるチャレンジ」

○研究所公開

平成 27 年 10 月 3 日（土）山梨県森林総合研究所大研修室ほか

講演：柴田 尚 副所長「食用きのこ・毒きのこーきのここと如何に付き合うかー」

所内見学ツアー、林業機械展示・実演、糸鋸での型抜き、チェーンソーアート展示・

実演、野生きのこ鑑定会、丸太伐り体験、研究成果ポスター展示

○研究員による連続講座「やまなしの森林研究最前線」

（山梨県生涯学習推進センターとの共催）

平成 27 年 11 月 3 日（火・祝）「薬草を食べよう！（食材としての薬草）」

戸沢一宏 主任研究員

平成 27 年 11 月 8 日（日）「10 年先の木材の A,B,C (Application, Bioenergy and CLT)」

小澤雅之 主幹研究員

平成 27 年 11 月 14 日（土）「山梨県の自然へのシカの影響と対策」

飯島勇人 研究員

平成 27 年 11 月 21 日（土）「森林の働きと林業」

田中 格 研究管理幹

○その他

研究報告第 35 号（創立 80 周年記念号）の発行

「山梨県林業試験場報告」、「山梨県林業技術センター報告」及び「山梨県森林総合研究所研究報告」の PDF 化とウェブサイト掲載